

長崎紀行

板橋  
三入  
大坂  
文化十四年  
長崎鎮台  
地

中仙道々中草津。大津より京



文化十四年八月廿九日江戸発  
廿日大宮 一日倉子  
野 二日 相井田 三日 塩名田 四日 和田 五日 塩  
尻 六日 藤原 七日 須原 八日 中津川 九日 細久  
手 十日 葛沼 十一日 赤坂 十二日 島居本 十三日 草津  
大坂 十八日 止  
京 十五日 十六日  
十四日 十六日

長崎紀行

文化十四丁丑年七月長崎鎮臺乃 作と文

俄其旅乃調度をも取らざるに止むとらふ

取らざるに止むとらふ 乃物師とも入はるといはれ来る者

引もきよひの湯を投しそれ中に漬といはれよ

漬といはれよ乃其流をそとに私乃警務いそん

才なりしにぞく葉月乃末もありぬまは旅乃

調度日まゝいそん 中々のいそん月終末へ乃

九日といふは江戸と發る事といふなりぬ

八月廿九日

曉分雨止晴



今日、長途乃之途成とて、雷れ池のうらむに  
入はし、列れ乃海と波のすに、曉を成り  
以、まのふ、雨も少く、た中、いふと、  
流もも、れ、く、扱、れ、雨も止、及、乃、  
日、光、り、と、ん、も、又、れ、僕、者、た、も、  
途、に、人、に、列、れ、を、告、く、家、と、  
留、り、伊、達、が、後、を、拘、せ、  
い、さ、す、く、そ、う、海、に、

看れ、西、意、こ、も、と、い、け、け、け、  
及、た、れ、小、河、乃、庭、に、  
及、た、れ、小、河、乃、庭、に、  
及、た、れ、小、河、乃、庭、に、

旅、終、り、い、い、あ、り、の、と、  
か、つ、く、を、る、  
家、た、も、  
水、道、橋、に、  
使、あり、  
に、も、  
皆、く、  
玉、れ、浦、  
文、雅、と、  
及、た、れ、小、河、乃、庭、に、  
及、た、れ、小、河、乃、庭、に、  
及、た、れ、小、河、乃、庭、に、

雜定酒罷辭江城西向鎮臺十里情  
臨別思窮無說話惟言自重克保生  
已乃非多只白山の小休と出く果鴨を返板橋乃  
海路さうさり此に此ありと電燈目さうさり  
此此中か成し季候もわし強もさすのさうさり  
さうさり種乃さうさりさうさりさうさり  
板橋のさうさりさうさりさうさりさうさり  
親友乃家士と外え送りの人とさうさりさうさり  
さうさりさうさりのさうさりさうさりさうさり  
さうさりさうさりさうさりさうさりさうさり  
さうさりさうさりさうさりさうさりさうさり

取さうさりさうさりさうさりさうさり  
會斗局吏内山半次市なり者と普請曹林一五さうさり  
馬を市なり此下さうさりさうさりさうさり  
漸く末のゆ免に此雨と出東西と別り又離るる  
情無しあさうさり  
畠真板橋驛出長哲啣酒盃意忙々  
田間豊字花迎駕道畔鳴鹿さうさり送行  
深戴國恩為委命却期離別亦偏賜  
前程一步趨西去一步背東遠故御  
玉乃渚と看にさうさりさうさりさうさり

左々乃子

板橋驛

昼休 不陳 橋本辰吉

九時五分 八時五分

此所と出く市井小豆澤といへり市を亥子向よりけり  
志村坂と云は子丑向に其六町もけりて亥子向に  
村底有甚沼村といふ家次井多し  
方に氷川明神石華表見あり川  
端止出ぬ

戸田川

松波川中分十間 水南流 八時五分

此川を松子て渡り延びく向い居に上り傍乃農家に  
入る

戸田川

小休 八時五分

未一の半を過ぎ此所を過く又庚子向に大土の上を  
以遊ぐして生蓮に出又亥子向に川家船運はき  
せは里に出ぬ石と云は蕨宿止多し此宿は子丑向に  
くも大道あり此宿よりぬ宿也

蕨驛

小休 八時五分 七時五分

人馬は是れ休こえハそつにけり市を過て亥子の  
成の宿と多しりけり此に辻村といへり  
村に入里高上橋しりけり  
いふを焼糸石物といふは是れ日ありし頃也

夜もせてさぬ夜をよれは白幡村といふさよふたりり  
海防の小河青と雲と大宮驛の泊り成り及の夜と  
中しころ成とていふさよふたりり夜に横あとの大樹を  
夜しころ成の中とていふさよふたりり夜に横あとの大樹を  
國一宮の夜神あれは清てししとていふれ九日も沈  
紅の夜あれは夕一色あてさぬも中ことなり是か  
浦和の夜に入

浦和 小休 松屋 廿五番 七廿月迄  
り第と全

若野くそくいふと出て子の方へ清汁谷村をさく  
たに地蔵堂のりり夢のけく大原新田といふ所なり

以てとや日と書とてぬ顔りに成兵衛打まに及のり  
えの業に松虫は共喜むとてあくの志こもれ去り  
向川春とていふは又哀れありとていふし  
いとく旅の憂は成もといふは地をいふはかや  
向いより入あまし灯のりかましとていふは  
なる者もとていふは我家の紋付とていふは  
そとに運に來れるもとていふはこも此とていふ  
いとく夜にゐのなりとていふは大宮の宿りしとていふ  
大宮驛 泊 本陣山崎在り 夜六廿月迄  
とていふは東武乃家を辞して我里に清汁谷と





人をしそふ

晦日 是月辰巳日 又是月辰巳日

卯之井より大宮駅を費去る子に向いけり川津の  
出場より豊岡に及ぶと、東をわたりて、ありて  
家乃乙石と詳し。公より此の地より、父を撰者と  
持てて旅りつゝ、是より乃世とせしむに、川津で  
此よりより、川津も又公清より西よりし、川津橋と  
かやいなる、つゝ、石橋乃あり、つゝ、つゝ、つゝ、つゝ、  
成り、駕籠の移り、つゝ、つゝ、つゝ、つゝ、つゝ、  
い橋を越へ、つゝ、つゝ、つゝ、つゝ、つゝ、つゝ、

いなる木のよし

天神橋

小休

徳田次郎

丑月辰巳日  
丑月辰巳日

是より成去り、向いけり、乙の石、井か、神社あり、是村の  
石の石と名たり、金山、乙の石、の、小祠あり、は村を、つゝ、  
池田を、つゝ、吉地、原村と、つゝ、村あり、は、乙の石、の、  
方へ、つゝ、石の、流、石、社、を、つゝ、馬、倉、新、田、と、云、村  
あり、た、つゝ、河、邊、家、と、名、つゝ、大、の、梅、の、家、あり、乙、の、石、の、村、の  
中、に、つゝ、乙、の、石、子、に、向、い、つゝ、つゝ、社、に、上、居、れ、つゝ、乙、の、石、の、  
は、神、舎、の、中、央、に、つゝ、つゝ、社、を、建、立、す、り、い、つゝ、  
神、を、つゝ、つゝ、乙、の、石、の、祖、の、神、と、つゝ、天、玉、を、祭、り、し、

此所ノ南カノ崖一有とてかハ一級云々然カ  
上尾驛 小休 中陳 扇屋 虫苑 小半也

是ノ成ニ方ヘ向イ切立テ庚子ニ持テ切跡を出テ  
の小山ノ上リ淺間小祠あり是ノ亥上切所至村を  
雷電ト云々成中ニ方桶川岩ノ入相懸乃岩なり  
油糟流沫草と云々あり

桶川驛 小休 玉屋藏次郎 四付岩 小半也

爰を切テ成向ハ行切テ岩を離レハ及廣畑  
此間を切テ成トシハ石戸村ト云々一是を  
云々東岩元岩ト云々村あり成ニ方ヘ切跡草畑

は草畑を切テ一此村ノ外繩子及木杉乃大  
樹あり後追保約藤云々切ト云々七八行あり切  
三軒屋ト云々云々草をあり右ノ天満宮祠あり  
成更切テ成ト云々云々小山上リ高土淺間祠有  
是ノ亥子向小切切祠上高泉乃切ト云々田名此  
眺更眼を云々云々一重在ニト切ト云々又云々

鴻巣驛 昼休 松屋 丸中付

此よりノの家指松皮を平ノ草ノ下家根ト小石を  
上並ニ云々切切昔云々云々一鎌倉家毎に  
皆カ云々云々一此名を切テ此間ハ切ハ寅申乃

方に甚くはくまきりて中郡内秩父乃山のものなり山乃  
形もあつてにいなる入深と尖りてとて眼をみれば  
りりしにふとひまけをさつて一村よと入りぬ此の家は  
外面より玉栱或と半半と生垣をつたふかさき東をよ  
子法のものも趣きし社乃半履あきかけ直りいぬりく  
て即ちいふ福多けやうし先よとと教養家やとも  
ありよこいさ酒成の方へけ及の右よ平山権現乃社有  
木の華表上物しりも先つしい所出せまき右よ  
観音堂えわたは法徳と云寺有是を成兵にむし  
箕田村よ入りて下流の出たのよし云れと芝もいふ内と

云らふありて流る香川と云父家と流ると後々の字徳也  
有中いん何と是と云ふは遠く考ふ色し右馬頭  
観音堂の甲り是が酒成門右に方心流法慈寺が  
云寺有ハ幡祠も有小山の上に返訪の小祠有氷川社  
石鳥居も中田左に浅間祠石鳥居も中田是迄いふ  
向へは歧路も石地藏あり右行田道左中井村を徳  
谷海尾と彫きり石表あり此のいふ七き農家にて三法  
乃高きまの甲耳をつてし社や中井村をさるる右  
上西光院左に泉寺も甲の左忍領の石枋もあり此  
と中井かりの流る石橋を架け候の中花葛藤

嘆残りゝるも又あゝれずいふをさして村有る沙村と  
いふは法宗寺あり成安に向い暫くして北へ入り  
四角打築き部内山秩父山をへんとて敷く地  
いれりや一掃前めころを農父の子業よりさうり  
重園の中の一並に成に向吹上村にふる右池を堂有  
曲り申末に終り小休に入

吹上村

小休

湯

ハハ

是をゆく未申へ向いりハ右山王祠あり法性寺を  
かやいふに大樹の古松あり後村へ入捕のりある  
下申間には並し人土子に上る是す及らる熊谷寺

ちあり成亥子の間を終り右川者古川とて忍の城  
ちりくくん由源遠くといふ百姓の教りし白旗  
城のちくくん申近々の家家といふり十分花波日光の  
上別赤城山といふ北に在る千町田の稻と黄雲といふ  
ちりきてを眺い人方なり交々雲中をてる人と  
おまかといふ例の僕者た伴ふいふたててる也

十里遙遙熊谷堤毛天秋色満田畦

忍城在右秩峯左两眼遠眺

おちこちの田毎乃稻此みなりゆき氏のちるも  
今や去るなり



九月朔日 雲 丹波の晴 四ヶ所を雲 ありけり

天竺の以徳谷跡を尋ねて成実の村宿を以て右に  
小川有北邊に常及ふし以て西に轉りて右を流して出で  
歩村より少く川の石橋ありて川を岐に成る橋と  
渡りて右に忍順の石碣有祀すく新しむ村に入る  
左に忍順の石碣あり心性寺馬頭觀世音堂あり  
前より石表を建ててはありて及畔田畑粟多し  
畝く農生あり又石橋と越橋ありて板橋有  
右に水車ありて小川の石橋を架け此より玉の井  
村といふ又石橋と渡りて小川橋の口有板橋を架け以て道

成実に向ふ及れ秩父山並延山と右に赤城山と由西に  
向ふて以て此に村出離れり行田用水といふ小川あり  
三間より一の石橋を架け及れ神宮社西光とあり  
小休をとりて此を流してありぬ

籠原村 小休 あり 五ヶ所あり

此家庭に由はり紫の大樹南燭大樹あり

爰を出て東に東方村と云ふ是れ村也及れ此より  
長月ありぬ此日ありて是より一里ありぬ  
替へて袷衣を以てぬき蓆物の後を感す

行征三日路忽遭袷衣辰前路四十

里幾 迎節物新

是の田間を暫く引く大樹の枝並有十八町繩手とり  
字はるばるし此の國濟寺村と云此枝は川の老木  
多く道切人の志きよやをく焼く有多くし  
二本立井成る方多く此並本半又茶屋三四形有  
左國濟寺下馬枋有大門深く凡由け茶屋をに  
しし枝のどのと枝の枝を繩を下りて杖を踏  
しつゝた中酒に向いけ  
ぬしとみ枝と三浦よあしとみなり  
糸は氷き旅ぬき

かくははきいけに終に深谷の宿とをかりぬ  
たて地蔵堂あり宿半に小川四五尺石橋ありおま  
ふ記宿かり準し免もたてり有右四方は神有  
幟杭建する家元と云り中瀬街及の木枋も  
あつて細き岐路あり及の中尖止天王少祠あり  
此路のまつきあて人馬の足と体むい迄申商は  
深谷宿 小休 若や宿古馬 五半内三石 小半三石

此家なるいしは川の流れ有て水清し 御寺後也  
此家の向と鐘堂春念仏堂観音堂有祐天の祀と  
名号ありしとせしむる日と板本泊よ定

免重下下本阿波の國守の泊りありて岩は三三の家も  
さうさうありて形ありてさうにありて押井海浜泊り  
様ありてさうに先にかりりし者たしそのまをせしめとさう  
りきりぬそふ茅場村に入ると凡ての泉ありて南成の  
方へかしの右小福為祠有社ありて並木ありて亦村に  
入る根村といふ右小正應寺福為社多右とあり  
凡て八幡宮有是か岳なりてをく入る岩遠き岳なり  
杯ありて願ふの傍ふも建りて之を女社所州の若松あり  
大子のか上使者なりと出たりて今秋にさう右なり  
馬頭觀音ありて大子か小源正院といふ從き寺有

條迄乃大比なり願之れ善後とさうとさうか  
普濟寺村といふ善治と有古刹なりて岳ふ源の  
傍墓有堂且木像ありてさう一見せしに矣  
其古代の物とさう像を甲冑と帯しつる木像なり傍に  
院の後山中小有柴門の傍とありて善治の小徑をさうに  
秋葉及に換りて昆蟲悲鳴の傍ハ五輪と有石傍  
ふくく文字もんて以下に墓石に徳四年酉七月三日  
ののくく彫りてさうにありて換りて換りて換りて  
父と妻との傍といふ傍ありて換りて換りて換りて  
の花なりと換りて有る又哀れありてさう古色にんけ



限に家士の墳も並べり画像縁記等と傳ふ所也  
すゝ三葉と請く収光也

荒利凄涼噪亂鴉墳前小逢子浜通

坐憐當時從拳今何在千古茂家墓唯有村童供野花

そよ人の志すゝと名のゝ若むゝとみ若ゝ成

今よりんゝと

斯咏して之止ぬがゝりた糸師堂あり此所是村と  
云た順境の木枋有善性寺といふ事あり皆くけり  
板橋を渡り子へ向い小段を下りた山上に観音堂  
地藏堂ありかゝ所又丑とけ小土橋を越右の方に

尾を燒家あり此所成市に向ふかゝり石橋あり是れ  
洪利川あり水清く流るゝ其六里板橋を渡り  
申南に橋一枚の方是北村といふかゝり高き上り京  
枋尔之是か牧西村にありまた八幡社有五五の  
社地あり是れ茶屋といふ

牧西村 小休 東松 十右馬 四本付之松 九叶之松

是と出く雨成り小溝土橋を渡り右に石地藏有  
此池間より上州新田城山見ゆ十二天山も幸く見ゆ  
右京大神宮あり是れ京末申に枋を傍尔堂村と云ふ所の  
村あり蓮花多し小溝有る右天王祠あり

村より北へは清いしり——たに本庄岩の傍にも  
まは昼休むをきよくとらる石橋を渡りたて床申家  
有戌亥に向いけ祀たたは女儀の山も申か——坂有  
け道畑業多——

誰謂遠征行路難輿中貧見兩邊山  
此中却有幾分樂不謂茲身空不還  
其六町もけ戌亥に精岩に入半に城山稻倉及  
と彫る石枋ありか——下た大聖院あり小海石橋と  
劫之か岩に入能き家造も見ゆ右小永信寺海禪寺  
又茅一義と彫る額山門も掲——寺も有安養院と云

道の中榎樹の下よ縁を少く準する天王祠有りあの  
昼餉ハ松巾包ハ右指つとく人の者の心よりけらふこと  
祝融ハ災よのて——由樹云然れハ依小流も趣き  
茶店もいづりけ——絶小海令もとく大聖社地の内  
入ぬ是といつていづりけ神もやびと夜ハいさりけ  
体も趣き家造も無れハけ而も輿申う中食  
ちのといふはぬりありありとせんも喜れハ  
輿の中に用いせ——竹筒取——とて——流りぬ  
僕者たぬといつてありきとせん——とて家ごと  
ありありと齋へ家ごと——とてぬいぬぬ

奥中小有るものかきありと云出つるものありと云ひ  
之流石表に石の大半表をとりて金鑽大明神と  
金字に置る銅額と掲げ社も莊嚴しく建あり末社亦  
数々有るは此社地より別南威徳院といふも亦  
造りよむ社地の内に有り石の石高下の流守の  
是近見する大社なりき湖に末の希よとく人  
来り交と出ぬ

か庄宿

昼休

金鑽明神社内

九半付迄  
八半付迄

交と出て出ぬ酒は情し又成兵は右に児玉郡乃  
木表あり是か小橋村と入る乃の中央に松の大樹あり

村と出く飛石に出酒の方へ一里塚を越れば万幸寺  
むらあや一成兵あるの事と情し田原眺む  
是か又村指あり石高石上村といふた宮主祠小出  
上たあり此村石をせしもの何をのみあせらるる  
湖に祠のありと云ふこれ

石上村と答れと云ふ心し

あつゆや

かく被れくさ切た根より中平にまゝ板を  
下に庚申の石碯有少くは小流石橋と流りたの家  
石上村 小休 萩原五郎 八半付迄

此家庭に小泉池有佛甲字板有玫瑰の字の如き物あり石と  
石の如きハ杖花子と云ふ一葉ハ落ちて居る

け家を出て小流土を越て流れて此合点の  
村落有り合久保村といふ左陽雲寺あり入口  
柵の内小大石観音像有右に竜岩社地蔵堂あり  
又飛田を越て勝沼村といふ申酉上村左酒造家有  
神奈川 八半村之流 土橋方へ流る 水が北流 酉の方へ流る

此川武藏上野の境なりハ

一帯分疆域域流る神奈川武藏連地勢脈

上野接風煙峻嶽音雲起蹟決譏水  
遷天涯秋色洽滿目只杳然

是と流りて亥子の方新町驛に入小石橋あり隨分  
すき宿之家並馬場作りし跡

新町宿 小休 かま登 次云番 八半小半と云 七半と云

出く小川四六間の石橋を流りて此舟天祠あり馬川  
舟也天と云ふし又此舟上村立石新田と云村あり右に  
稲倉社小堂あり此邊小石と集光寺と土手多あり  
左小神及小祠あり舟の上幣と云ふなり是なり  
申酉上村中流村に入り中流村亥子上村あり

川色しむ

鳥川

弘渡

川中凡同斗の赤石多し  
水東の流

七時迄候

川向に岩鼻村より橋あり雨の方へ行宿に入上り板  
少く有た赤石の石垣あり観音寺といふ寺あり葎の  
大樹あり栗荒多し松木をんな是なり又此田の  
り河村右り言寄順の石碯あり一能里石碯  
四より有西の方へ向い家板建はくは新水といふ是別  
倉を此澤畔り入口石上燭王堂有少く坂下りく  
た福元の社有石碯あり

倉ヶ池澤泊

新津  
新使不八右馬

七半時迄

今宵六つ乃撞鳴り分雨降おとさし止ぬるも非次  
翌日の泊りも遅しこれ及の程も遅く候もあらず  
關の政もあれいふも遅く候と云ふ人の程に  
家に宿りと別宿をとりぬり松井田上泊以後は皆  
上泊へきこにき先きに宿りのみか行くと  
者へきけ候云き候

二日

終日雨降

灯を吊りたる宿り候とて雨の方へ行と候候  
より此雨も泥降云々中にも窓等と雨を度  
てし宿り候は四方に候とて只胡堂とて煙草

と申すは月々早まじ

証駕早辞倉野驛近遠道中雨空濛  
昨朝遠嶺越無見前路唯行雲霧中  
宿と出れはかしの松杉並木有成は切たきしん山  
烟雨の中にぬるる由木小一里塚あり八九丁切たき山の  
上り記赤松一株有此変も二本の松杉多し安樂寺と  
云ふあり糟澤と云ふ小むら並木松杉皆葱うり  
此並木廿八町有といふ斐々川右小と流小川あり  
小尾有といふ水は流のあり板橋寺と加ましく  
馬山木のありしん是より西上橋又小流土橋あり

並木と云は田中村といふお恵の村所あり廿八町まで  
之並木あり是より成実と稱す高崎宿といふ  
棒鼻あり木戸有る左右九木のひきまじりしるも此邊  
先より倉邊土子を築き内小川之の昔所あり  
け道下亥子に向ふ町並りし右より往き寺あり石と又  
やうりまじけ木長きしを瓜と云ふ又新町の御地所  
城乃大子たこら由渡し橋せと云ふ由是か先此所並  
大小より概所らるるの町も有右小寺左小天王大祠有  
七八町切し曲り申上り右の方中仏及の石橋有たし  
赤き大門のちあり是か坂と下り木戸有内よ昔木あり

木戸の外に又ひきり有右小寺と社有左のくまり  
城のわき先ひきり油のわき小休こ入

高崎驛 小休 右いほ  
七所次 立河山平也  
半時舎

此石反と水車有とわき成平に曲りひり  
右の方寺ありしる雨おをるれは多くはるも

せきりし一申へ石もはひり思ひくく川端に

出ぬ是馬川の流北よそ上六権井川なる板橋

或十間餘と架流又小川板橋三四間を渡り

馬川 東南流 板橋十間余

是右末申西のらと踏山に村有あり是長村と云

入口左のくま美日堂といふ堂あり傍に古墳墨ころ

西成はり小坂と込まる北半と多くるり六雨中乃

旅書中なるまもわく左のゆひひわく

秋雨蕭條客路長輿中無觀益思郷

定去家程頑児女終日要歳皆右堂

此村乃申とたて八幡大社有二王門鐘樓も見ゆ

出外小川土橋有た乃山を雲冠る山甚高し申の方へ

川流止此山の麓と流る是右川に流るはた山小

川系有是白水川なる一此りな夏夜もあくと先

これいといひわくまに





有おむの宮にげさ事にはしつ隆成とみ及此  
隆成を築く教あり安中城大いの方をさるれ  
城之守使者おぬ事候してさぬ宿所しけり乃をり  
政ありた右とある此日法守慈谷権現の祭事  
有るよしそ造りたの事とそいふに川河  
並りけさ八山砂地とてさる不流停

安中宿

小休

九層小八

九層小八  
旧和名

交をあらく西へけり大松並木と入けり古大木  
見るとさし雨のあや先束や此並木十八町  
除地ありし安中の者云き京市村と云おむの村

かしの流水有於こ二とけり右小神所社あり  
たみ秋葉石小祠石垣の上にあるは西かしの有  
右小真光寺と云寺あり是か八本木と云り右り  
地藏堂長泉寺愛宕社有

八本木

小休

九層小八  
小休

九層小八  
小休

庭小南燭大樹有

是か申西へ向ひけり右杉林の中伝吉小祠ありた  
松並木の尖に石碯を由入口狗舎あり是か御承村  
云たは福寺有此家て繩綱と賣右小天王祠  
杉林中に有おむの社なりかしの観音堂

右川慈性寺ありかへ先に右小堂有門外松並木  
畫造り松あり右山をみる響くは凡妙義道と鶴の  
石燈籠あり文とさく既覺性と云右小堂有左小  
堂あり是か下り坂成更に橋し又西成百打たて  
谷川有白井川の上を又小と付し北半をみる是か  
未申は橋し坂を上九顧まは元来し及と見る又西に  
上り成五ヶ下り切平地た小谷と見る妙義山  
と一右小阜をみる響くは左川有川存流と  
法尼寺又西へ行岩ト入けあり下り坂は橋の石  
家こにゆの西田此業と烟草ありし

途入上毛眼鏡新桑麻烟草橋疆吟

瀧村田畠稻梁少只聽櫓声連四鄰

松井田驛 泊休 賜本陣 金井後石馬 八半府志

平陳松奉約次序普請之断方左前

三日 天明雨止 辰後日出

今日之涼越ぬれとて郊の希斗りに松井田乃岩と  
出るは晴とけし雨と頻りて四方眺あり  
松原振響しきたるは秘に岩と出れば成更に  
橋し小石橋と渡りかへるは有是とさく  
池田へ出川新堀村と云

浙漚秋霖不得晴  
松板驛猶鷄鳴  
暗中肩駕泥濘道  
嗔睡叱麥與雨敲  
右のこ石垣多し此下より坂有る又右に曲り  
酉申へり也戌亥に橋し又申酉より又酉は是の  
川窪村といふ又下横川村の間山路屈曲たに深き谷川  
有此不もて坂を以て思雨も少し北西より吹来り  
戌亥酉にり成屈曲しとけ山路と下りて平地  
有り又山と定り又平地有る石地嶺極立たり  
かし坂より上り下り一町斗あり又上りて和梨木  
村といふ下りて之場あり

梨木村 小休

大野湯池

六半時之久  
小半時之久

け下り僕者まて人えへき一歩乃通り又せり物也  
て都合せしむ是か也に下り坂と申酉は妙義山の  
後とる此山の奇状を要乃及まてあり山皆  
石にく斂のめく有扇瓦のとき有或は葺或は露り  
奇態多状石壁のり山木皆茂しぬて乃紅葉す  
深き松林に書く花雜及山水の志面目おく是成  
んが實に重者家流の小池と物なけ坂と下りて  
子に橋し橋と載又申酉に三丁以た妙義山のり  
に百合若乃矢坂岩といふ有山頂扇瓦のめり石に

丸く穴の似たる之は人乃石骨一と云ふ百金若くは  
可矣然とも是も久しくもあまりにあらんか  
谷川有板橋を架ひ是か又上るのき河斗し  
右よ百合若足柳石といふ有流傍の平石に足流の如く  
凹状の石有又矢板石を架會し朱の物之先乃石骨  
七八丁も隔りしけし道は横川といふ字より  
坦及とり九町ありて河波の園に乃述職に東に趣く  
右小札建場有石仏あり有た水車有けり向山に  
跡塚の如く大岩あり終つたの家あり

横川 小休

江戸三急  
小休の記

此桑原橋を向山流と云ふ長流及中より乃大流あり  
山乃系又まよ唐連の山水の如く雨止日出ん  
此下を悪人敷橋と傳聞道と云

此下と云く並に横川案と云く石雅井関と云右  
關門有つと云く下より板木申へ行て板之谷川有  
板橋を架ひ長十八九間あり一戊寅は横川御村を  
いふ是り板有右より石佛石碣等有か平比は右小  
水車有向し碓井原なる石系村と云く入る水石の如く  
右邊の中央を流る右小原申場廿二夜塚等と有井汲

清書の右、土山なり。宮と累する。松なり。  
岩共多し。是極坂本宿に入。入の合本門有水中央と  
流。水宿より。さる宿之。根平く石と上り。出只  
右に供養塔有。たに阿弥陀堂あり。

坂本宿 小休

阿弥陀堂

五半時三宿  
小半時三宿

此道と出く直に峠に。上り。口。林樹皆茂し。く  
天色と見。は。坂。峻。険。なり。成。安。上。家。石。山。に。希。乃  
多。石。なる。是。町。斗。り。上。り。正。点。將。し。走。り。子。母。上。又。点。の  
方。曲。り。西。上。向。又。丑。点。上。上。直。に。亥。子。將。山。路。變。極。急。曲。  
右。り。赤。土。崩。れ。の。山。り。り。り。り。右。山。上。た。を。見

昔所あり。此不眺。右小平山。是。り。未  
申。上。り。直。に。曲。り。又。申。酉。上。向。上。り。斗。多。く。成。安。上。將。し。  
所。見。晴。し。又。正。丁。迄。多。く。走。り。成。安。上。將。し。右  
谷。川。有。西。成。上。り。た。五。葉。松。有。り。九。丁。村。未。申。上。り。正。点。  
將。又。走。り。成。酉。上。曲。り。又。申。酉。上。上。け。り。四。五。分。河。の。山。を  
抜。四。五。分。多。く。曲。り。上。り。七。嶮。峻。嶽。中。行。り。成。り。あ。り。  
亥。子。上。向。く。上。り。多。く。右。方。へ。大。岩。有。此。而。を。臨。面。顧。す。  
川。八。連。山。矣。其。波。清。是。が。年。上。上。取。上。將。し。大。嶮。惡。  
け。上。列。石。と。云。有。及。の。上。り。り。り。り。石。り。り。注。年。  
樂。宮。麻。田。下。向。り。下。り。大。木。を。以。兼。抱。と。造。り。有。存。

下に馬を廻り石有是乃及の中二斗一坂の存りて  
坂成有馬のほに云と云止りの如多事の子そ四  
有此と云て少く曲り有い下を願れい坂も中宿  
限の中にもる又西成上り申酉上り又成実又申  
將少平地あり及曲に芭蕉翁の句牌建一ッぬい  
うし流も貞留衣更と彫い下かか下直に申酉に  
情を可斗して成実の上立場なり  
池月 小休 小池小左馬 四時迄 二ヶ所と出た  
半時迄 築根のまや  
是の道中中、執き日も晴、いれあけよて上り号、砂り  
越上りくたよ別、石有成酉のりと、曲上下して

後、成実に向坂を下り途中の茶屋と云有

山中 小休 松原を更 九時迄 下り迄

なほつても海と山以後の方に焼山に申せは成  
山と云はし

夜と出て直に山の上り申酉上りた砂心、大岩を  
山越り上り下りて、右より水の層、又少と、越  
刈、平地有、右に水車、少く三つ有、又刈上りて、進、水、権、次、  
社有、日本言と、系、はし、祝、む、と、出、ま、ま、け、ま、居、に  
上、方、此、交、園、東、弟、一、の、彫、を、う、そ、八、州、一、布、よ、あ、ら、と、也  
日本言を、臨、君、妻、を、ま、ま、い、も、こ、の、新、り、り

と云実北眺望云々んあやうく四方眼と遊すやうく  
を山腰とてして防以無し一向々東流下流の道下  
甲州信州浅間の地方なりと眼下にる事なく此處は  
天際にる由是が西成の山なり下り信州の地  
此より西國の境と云や

横川関外瘴烟収 碓井嶮前旭日浮  
雲散連山追次現 兩流急水化階流  
作者霜樹諸峰錦 回顧熟稻滿畝秋  
山巔封疆兩國塚 西降一步是信列  
是が馬曲してと急坂と下り右に浅ら岳ん由不到

乃憐つりりあはれ然北をさへしとてはははは  
極にさるれく大木矢屋の意あり後者おとわくはし  
よよいさあはれ先も中やとてと老僕もたを  
云あひそ山とわめくはるす時少くはくはるすも是か  
先々の山とんあひく後にこそけ山の言後なりとて  
知りあはれ先とてと其時此いりののみさよとて  
お後とせたりと長崎道行て後小とい合まはとて  
浅間をいふ言後なり山は見えたりし実北わくく上音  
の極さると知りぬわを程も目のさへ下れば碓井岳  
の跡もさる下にはあはれに登路も後しとれは人こはさ

川程亦坂ハ下リあれハ十七八丁モリテ又曲リ小川の  
土橋と渡リ宿ハ也念也

輕井澤 昼休 本陣佐渡馬 八丁子念 日新三茶

此宿元年乃燒キテあり、最造唐切ナリ土産とて  
浅間話方名物の生話と云条と出ス

又と出テ申シテ浅間嶽乃モ子れ山と云有ニ之山  
モ樹木更ニナリ頗大ナリ此山の旅ととり  
宿外れハ噴糸ト出浅間の旅地ニハ西ノ山  
大ナリト云右ノ流ナリ申西ニハ七丁行テ小石橋有  
け此浅間ハモ子れ山の陰ニ見エル有石碕石塔有

モ子れ山好田と云小村有ありあり  
切ハあき佐渡ニ見ル由け道山の正面と云ハ  
吉定と云修クニ由

リハハモ浅間山ノ陰ニ見ル有、昔妻あり  
ナリハハモ浅間山ノ陰ニ見ル有、昔妻あり  
切小川土橋あり成更ハ行皆掛宿ニ入宿トあり  
宿ナリ右ノ水神祠あり

皆掛宿 小休 青森 七丁子念

此宿幌身ニ下テテも話を終ル先のとありセり  
切モ迷惑ナリシモ切ナリハハモ



北宿と出で西より水及の中と流入口は東流  
中より先と西流と北宿乃地勢中言を知りし耐くり  
右小満願寺と云ふ有宮と云ふ宿とありたに木車  
古より茶師堂有石垣なりしと云ふ五の堂なり  
又村と申るは七八町以下り又六七町村古宿村  
初より古宿宿二基有た天王小祠有此宿浅間  
池くとも十丁斗りて借宿村と云お意の村之右を道  
明神祠有る辰類有る辰上り出ると云ふ下小海有  
北宿平系とりり十丁斗りて少くも中若馬塔観音  
角の傍有出ると右小池甚茶を向牌有吹瓶す

石比浅間の地と云ふと云ふと勝りし石を平  
浅間山山嶽止乃石碯有是と云ふ追々宿と云板橋  
四間斗と云ふ宿と云ふ有る浅間と云者宿の  
傍掛り宿多し宿と云ふ又り宿右海濱社有  
他社之禪寺あり浅間寺と云宿外是た石を平  
とも

追々宿

小休

三河  
七河

七河  
七河

出く未申り山外と云ふ石碯と云ふ石碯  
北宿追々右北宿及及中山道なりしと云ふ  
系池の中川海平石碯と云ふ表有十三丁り

糸冠下りた古谷川有午に轉一又申西より又糸  
た長と流る是より少く上り又下東申出ありま村  
と云小村ありま村之右馬路親音格有是又下几  
此市へより嶽後。まがり西に轉一又右より  
七八丁小村ありま小田井村と云此岩村也  
出外れはて小休に

小田井 小休 宝壽院前此立 七半附道云  
日井三在

此所に岩割の者かと言岩村田に者か言ま同  
宿が御出するがして塩石田に越して者か言  
云越す日も西に流灯こくとも此の御出にこは情なき

事、事云こよあけた論をへんがこれ、灯を思ひて  
此市と出ぬまより、まのり、池に村出外ま右小  
社有何の社也や、言ふもな、く、ま、是、か、る、か、り、  
廣野乃中とけた古田取方岩村田入谷住吉社  
に、て、想ふ

岩村田驛 小休 住吉社地 此立 二時迄  
日井三在

此社松の村立の中にも小祠也

交を出く、頻りに舞り、く、け、降、き、を、く、し、方、位、も  
定、り、す、く、福、を、成、果、る、の、り、と、唐、曲、し、て、出、出、は、右、に  
曲り、社、合、と、出、る、右、の、方、上、子、屋、の、上、に、お、生、松、有、下、垣

おろしき有女支松と云ふは是かか一切相生村と云  
松は古来ともいへり村の名もあつて後小地と相  
か一切は京水碓有小川流る是か切つて下平塚村  
入口は大井のむらむらの村に右の方急流と水車三箇有  
塚系村といふありき村に入弱取の神社有石に弱の  
形有と神に祭らるは京水車つ有年小く  
塩名田驛の建ふは是也  
塩名田驛 泊 本陣九の若云傳 坂舟三の  
四日 使情  
夜取く宿りて出申商に句ひけ驛の外止るは神社

坂と下り直に流テ川と出

流テ川 幅四五十間 大石多し 土橋を渡り

是と云つて中馬村といふ坂有成るは右

大徳院と云寺と石板有然水屋の中央と流る

右生来と云丸連と有丸行者堂あり村と出あり

板橋是かありは村ハ幡村と入成田入口のたふ

も有か一切は右曲申の方一切右ハ幡社あり

ゆき社頭なり是か地田をさす百餘村有き

此間と云つて又村有是より丸生流之上り三曲と云

四五町先り下り屋曲六七町懸る坂なり下り盡せば

望月入口より望月氏城迄山右小なるありし而も望月  
故より麻毛の馬と云ふなりしは此の山系有と云  
世より角平川と云

角平川

板橋土三馬

北流

橋と云て板と上りた川向原石窟の内り天女洞有  
子亥の方望月跡と入是か字也

望月跡

小休

小松原権右馬

小休と云

此窟と云て又分たた帳<sup>辨</sup>宮有なりし社地石壇石籠  
表類有是と云て又板と上り成<sup>成</sup>尖とむひ上り平地  
材有是なり又池沼に出申るなり武官なりし此

板橋を渡又降<sup>祀</sup>の板と上り北板と云板と云浅沼山右方  
後口より由け下り望月跡と耕地の下に隠れてるん  
上り流く岳右小なる也又上り松乃村迄と云是か下り  
用水池有又未申上り分前田井村に出入り小板橋あり  
能き村なりた流氷あり水車家有小坂と上り又あり  
車あり北邊小兒水浜乃原板也云と云都のいなり  
北村外しよか下り又上り石板の上宮あり是か又  
下りた水車有又是か下り是乃石割端と云有り  
浅沼岳妙義山道より由りか下り小川板橋と架け成る  
斗りあり右小橋原村なるも此材也いえに是なり

ありまか少板橋と鐵之若田に上州上西の方に行くと  
水車あり若田城跡山たてふ西上の平なり山あり

芦田驛

小休

池田屋 助助

五半村 小半と云

能きなる也

交河とて西より右に門内に五鬘松有家有反りに  
堂有り土外に分無反端に山田村と云たりも平  
あり少板橋とて一峰に右赤松山及のた古も有る  
大樹有西成に川十丁斗りたて下り正丁斗り申の方へ  
上り又下り此交河三形有るさへ又内之是か老庵  
下り十四丁と云あり下りて此道白藜多し右山  
た谷也省入土橋谷川有九石乃石垣あり此道

田畑のすぢ皆此坂乃末分省止能きなる名に申ふ年久

長久保驛

昼休

吾妻 九会橋

九村子と云 旧村と云

此家庭乃向山とて中陵右麓より赤木登坂して小堂  
なる人迹絶さる絶壁なる成人の位なりと云り  
垣乃外より流川有眺よし

出く申末より右の方石乃山一山有丹色の石と云る  
小松あり蹴踏之類石乃岩に葉茂しと云あり  
葉山と云る名地とて下大門村と云右に堂流流社あり  
右小川あり七八里に板橋を架け向小葉山乃也  
小山あり指前小祠を安んず是より麓谷むらゑより

又七八百尺板橋有落合川と云依田川也云々し此より  
南の川也和田より落東乃川と云大門峠を越ると大門峠ハ  
信玄小笠原合戦ありと云いり古小笠原村里なるもの  
墓ありと云ふた水車あり是れ和田と云たり  
大樹乃下に天王社有る山乃半腰に石有る有り  
大日堂を外と云ふ程有る水車ありと云

下和田

小休

田中屋  
外右衛門

九半村之志  
小半之志

是より去りて外山を下りて八幡社有る屋敷を  
かけし橋あり中に石あり鐵のたこ五輪石あり  
右の山より産焼鐵ありと云村出右小又八幡社有和田

入口右に八幡社有る大寺有是れ宗樂成安の石中  
右に寺あり此觀音堂と云し下西より小川板橋  
其間渡又より上り小川橋進川と云

和田驛

泊

本陣  
永井十五郎門

八半村小半之志

此辺に井あり此の水は皆ちくま川と落合と云  
越後上流進みし

五日

卯乃時より和田乃驛と云し未申と向ひし外に  
右乃方あり是れ和田乃驛と云し未申と向ひし外に  
カリヤス村と云古小流有水車あり利た乃川置り此



紫と重天若くは九龍の松多しし余も好くは  
海多し入る羽威志川らしき名くは

晚秋初丑過和田 峻嶮攀雲登羊天

北地高風寒激奇 將中縹紫於悚然

八九丁の午下橋又未申に少くは上此辺葛葉を杭に

纏ひて是河に用とて況馬に脚のしあり又

八九丁の右小石小仏有寛有て水流か下木右の

流系小石橋あり午に下又未申に橋かよ板橋と

發之右大石或は有此所か下又申西下のり

小流右の来小橋有午の上又西に橋右林樹乃之

鬼系多し北上り新及坂観方坂と云下有

東海庵 小休 土屋 夏八 五半内三石 小半三石

是方多し屈曲し九下余上る是和田殿上り

北山樹木少く小甚芝山より峻峻あり頂上り

石佛多し夷石と多し左に坂下木表建はる

流汚る水流流流山一面ゆるる遠眺いんか

嶽中嶽かと雲ふくは由是か下り盤旋屈曲せ

中陵左のりし惠美壽大黒岩と云大石の右大黒

のり松方筆と云其状あり下り遊しし

北下りた小曲り大曲りやと云所あり



西條屋

小休 小口五九郎

四時三念  
半時三念

此茶屋は小川の滝有五色豆と土産りしは  
大磯砂利のや——光新一ッモ

是の園の方へ下り成実より申に又下り右の方  
攪木岩と云有核に方木と累するはやく三四寸あり  
共寸れ方枚長サ式三寸れと有灰毛の石あり  
た小川若きは是とこの園の方へ八九下り小川  
板橋あり七八下り右の山に松ありとせする大蔵有  
は迎欠ヶ石多し——た小鏡方の大石橋あり又七八下  
り申に橋——小谷川板橋と架は川と右にそ

八九下り桶川下出け道のうちくる坂ゆるく海

たと云右ありよし——洋は巴未申はり

桶川 小休 小松松之橋 九時三念  
九時三念

此所より小笠原を州へ是は道の東に下りに途余と  
外族のちがひあれは五々使——途巾のあをよと  
取しり此の風樹との紅葉はかきくは沙とよしすり  
ゆく園の振流情と風つりに足る

蜿蜒溪路莫究窮 憑水迴山一徑通

昨夜飛霜深秋嶺 正鼓喧月錦帳中

是の園成は橋——古尔堂有此道より先は小川未花

多の平地有り、幸丁計切又下り、右小川有、巳年上り  
又申下橋、小板橋と鐵ク、下り、未申、午上り、向小庭、  
湖水少、凡馬、又午上り、右小、一里、塚あり、是か  
未申、七八、計切又下り、共丁、又下、谷川有、里、斗、此  
板橋を渡り、鹿合、云、丁計切又下り、此、川、原、の  
石、谷、梳、毛、下り、云、水、決、氣、あ、や、以、所、と、云、武、丁、  
身、切、又、下り、武、丁、計、切、と、上り、又、下り、商、上、又、上、り、  
下り、午、上り、か、上、り、夜、上、又、巳、年、上、り、た、小、社、有、名、座、有、  
七八、計、切、又、下り、午、上、り、向、ま、木、之、此、中、入、夜、上、り、向、  
凡、り、に、茶、屋、有、小、説、話、社、亦、有、是、り、再、下、り、

凡、り、に、秋、葉、社、有、石、碯、多、り、頗、る、大、社、也、武、丁、計、切、た  
大、松、樹、の、中、に、小、社、有、名、石、板、と、下り、又、古、名、宿、を、ら、き、是、  
温泉、有、名、宿、也、此、の、後、者、凡、り、入、り、余、と、ふ、入、道、場、也、  
此、是、也、皮、履、と、懼、か、た、く、  
諏訪、陣、 昼、休、 本、陳、 佐、友、市、友、書、 八、時、三、着、 日、早、小、半、也、在、  
此、所、に、領、主、諏、訪、勢、別、か、て、使、来、り、云、く、き、こ、鏡、籠、と、  
滑、ら、る、也、而、是、 去、の、の、と、秋、風、を、穿、く、身、を、一、む、と、云、り、乃、 是、亦、其、行、を、せ、よ、  
交、と、出、く、流、石、下、れ、又、上、清、流、是、と、秋、の、宮、と、云、上、乃、  
又、と、一、二、尺、余、垂、下、り、と、云、又、古、雅、所、謂、湯、社、也、  
凡、り、に、末、社、有、と、多、り、一、は、又、の、の、八、世、其、有、末、の、及、中、

記すに也あしり此の勢せは是か石坂と下り着と  
ゆゑ西の方へり是は凡由流訪の城と見へり  
右小神と寺大門の事成実上り十間斗は板橋と流  
十丁斗切は東橋村と出おる凡の村と生垣と  
此屋敷の敷多し凡に性後寺凡八幡社有是か  
十式二丁切七八りは板橋を渡今井村と云ふも相と西成村  
今井四節と云ふも一城跡は此の事と右に三言石坂  
大石狗あり是成り松林と云は凡の石大石右有は石字成  
丸石と云ふも上凡た古畑也此階級是を塩尻跡乃  
上り口也北邊の願寺と云は湖水面より北西小石字

凡の石に白く成るも木あり草くもるに軒は白粉  
やと塗るもぬし鶉更ふ凡とも知ふ後屋は白カシホと  
云ひ七八丁より右小石地流傍に清水有字地藏  
清水と云ひ一か切凡大石あり此上頂上に凡  
社有浅沼是も成実上茶包二形あり  
塩尻跡 小休 茶包 湯次 七時 茶包  
き武丁切又下右地とに坐像の仏有小流小石橋と  
流是も末申へ橋し又下凡並酒八下流小石橋と  
皆芝山なり右の方に赤松小並木あり式三丁切西成上  
下り七八丁より申南上下右に石と丸井の如く圍り

清水有傍河清水と云彫る石表有大河清水と云  
三丁計り又成兵下凡三町家有是か又下凡頻り  
事十五丁凡古市小松林あり商申上詰り又り右た  
御藏度申上三枚木の石獨立成上句い柿澤村に成丁  
斗りの小村藤也出外に耕地と云是との内七井改  
なるしよの系よ山と云あるけ西列平地  
水車有九尺斗の土橋と云取小水海と清樓有成亥  
の方宿に入口右小並王堂有

塩尻驛

泊

本東川上九尺高

七半付三着

此所より流防のうなきと焼く食味甚し

宿に之がりもうなきと酒と成給る

六日 晴尾

卯乃井より以驛を去り申商上凡末か成兵橋  
宿外に右小阿禮八幡宮有入社也或写汁の板橋と  
越此田へ出是か大木庵村と云此田と五六丁商上凡川有  
水北流と十回斗乃板橋を渡り田川橋と云是か成兵  
行左山下に白海を渡る家あり先ん又橋あり  
大門村に入右板林中多右なる八幡のどし出外の  
此田か、又右桔梗う平也古戦場と云是汁の廣地也  
右の(此末に成兵後)の山、雪ふくむあり凡九尺

小山あり此及申酉より十丁斗切た古塚有上小松と  
植くり又十丁計そた粟俣茶倉と云茶倉あり此  
白き幹の木の由畑中にもき杭と云丈上豆のこを洗  
下並石多し一末分未申上杭一洗る上入午末上切樹  
か下下ん右谷川有たこ岩光寺及あり右山上に神  
社有北下義仲馬を洗る水あり依く洗馬と云  
そ水と及分共い下も入す一これいせん右田の洗水と云  
洗馬跡 小休 馬鈴や  
五村子  
五村子  
夜と出く未申上切右茶後と有入口亦た有た茶後と

此跡未申の宿より家在もえり

すまも也神及丈もまはし地荒堂もえり是を己午に  
焼く其橋を度未申上切此橋の杭よくに地す其のよくよ  
余りて有氷跡のゆき小沢川と云た麓は神を居る由是分  
坂を上り牧地村と云有寒しよ村也家に午と酒並敷而  
多作跡と地所との水は皆北流しとちくま川は鉄石も  
此村山外と古皆山より右山の中腹に石佛を安んじ此  
寺形を小獣皮と書る是を元山に切り午末上切お  
左の宿也氷洗還の中を流る右の山上に赤山及神の社有  
此の山を雲母石物と云こ及柳のやうし石あり  
牛山跡 小休 扇  
伊豆  
羊  
五村子  
五村子

是と出くたに長教寺より申酉に曲り谷川に橋  
七八百なりと汲未申は谷川右小なる山と石階を  
しり八幡社有是か又酉に右又未申に右に橋  
一株あり或三丁に右に橋上板を植小石に多し是か  
日出塩村に入園村茅を毎板青の平分石を上至能宗  
首の内家形皆は是とさく少しの上下式り  
亦之の中茶をとり形を限し石階の社有然此橋況の  
かし是か少し上家石の中かく小大石有是か午に  
かし曲り又未申に右に谷川に右又り右に是か  
午か未申に右曲りて右石の上は右石も是か又り是か計

又下右小大皂角樹一株有右小寺形屋有並み又下  
谷川右と流る是か十間中板橋と後左茶を種金  
云歎と言是栗鼠の類也尾州領の表は此川と堰川と云  
此橋底筋は半分 公儀が半分出入用出ると云是か未申に  
橋しり是か上り又未申に上り又辰に上り又未申に右  
右小橋の大枯木五七株有たに観方右石橋も是か余程  
下り橋河と云家並有是か近余程の境板橋及も有

橋

小休

長七段  
深尾山

四時迄  
日影三葉

是か本首流也亦曾ハ田畑をくりくき大豆も松木も  
買来由是か山中乃家ハそく板守板壁也云可強

左と申且信州と申と云稀也桶の輪は松と用桶  
木と別して用松の季候近く麦やと云月幾き  
多き早く柔厚なり河川信山紅葉あり一は山下  
松との細工後丹か六ら一秋皮秋臘とありと  
貴家多し

是よりありしは左に延茶屋少くはく松屋の  
板橋と板川左に有垣及屈曲未午成庚ととりわけ  
片ひは村と云有右斗室岩るか一は左に汎訪社有是か  
園は曲り右水の根取まじり垣有下りて又上る若海村  
と云北辺よりありの村と云と秋皮と貴か一は又村あり

中畑村と云カシシカの皮と丸むかへして造物一と云  
家方夜又ヒシヤクと貴家も有少くとりり八九分乃  
板橋を渡り押込橋と云杭一は朽木村と信州白木  
番所と云矢束門一は足將番有材木曲物と改る  
交のり一はか切せ熱川岩なり東申のりき者  
熱川津 小休 義濃屋 儀八郎 九時子玄 口希三余

此高水往還の中と流る

右の方舟寺あり汎訪社洞院菴も有岩岩外右に  
石佛塔あり一はに大橋有無か未曲水たに高小橋  
岩山有少上い石の岩或は此川本亦有川ありは是より又

下式三つあり又上中下三押込村あり右其寛有木橋といふ  
細繩と賣家多し中より板橋と渡十三間有是が別名如  
右其利のつけらふ有是下斗川流九斗計の土橋を渡る  
辰巳と橋又未申より十式下斗川荒宅一町有かゝるに  
小谷川有九斗の土橋を架け此道一橋と云申商に  
川をく河東に艾多し是かか申上り園に下り川流  
川流傍山多し其下より又申上り未申より小谷川九斗  
計の土橋と渡又かゝる下り右其里に木橋あり其  
有是か宮の下と云家四五町有た山下に甚多病の碑有  
送りま川たかど早と本名此社と云句と歌是か上り

た其流訪社有よき社所柱は有向天神祠有林中有  
坂を下り又未申より此市古の川板橋其流水事三三有  
此道流は泉細流所よの歌と賣家先後しこれ  
平澤村にけ村也外にか未申より中版に尾州言れ有  
是かか谷川有三四間の土橋と渡りり是して其成り向  
平地たに一町有二三斗計の土橋を渡るの方坦及上り各  
成更に板橋十間計流る家と井橋と云是か未申より  
ぬらたの山を流りもたた木橋の口有右山上に八幡社有  
此市川其助も流るかゝる下り右其里に木橋あり  
川右其法然寺と云寺あり下り寛有中谷か右曲り



又未申正行北下西類家居より橋を細く築きわたりて  
問屋多し

大示良井澤

小休

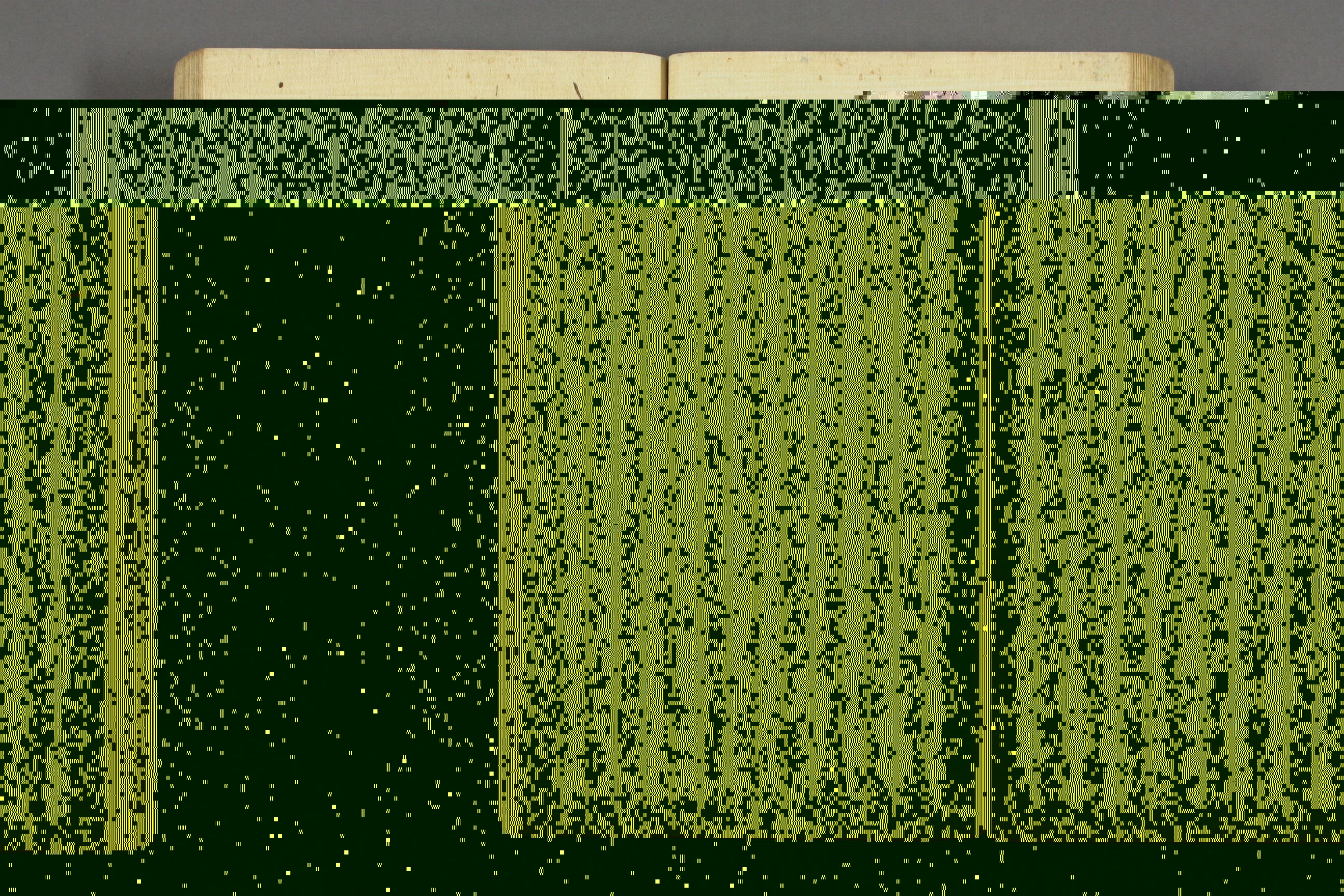
浅井屋  
深之井

八付  
井之元

宿止口丹鎮目大明神社有松林背蔚として能社は是方  
より右石小仏殿有是方多居所なり山路崖曲して  
上る右を清水と土橋と是方辰の上橋向山は後る家三郎  
有け申す右に棧及び方か下り又申す上り又成成上り  
九月斗の土橋を越茶屋三郎有又辰の上り此所を  
親方坂と云又成成上り又西の上り又子の上り又午の上り右小  
寛方又成成の上り又午未の上り又成成の上り又辰の上り又

子の上り又辰の上りけ也たた柄の亦之此也つて坂と云  
ぐりた本をて用ふる井戸の松より清水あり六百是虫也  
是義伴観水と云依り螺施して午の上り諸凡成三下  
右小茶屋或好有是方外に下右大柄樹多有又成成上り  
又未申す右の方せ之に神嶽遠祥の石と木津有  
是姓古本曾神嶽の多居此下小ありしは依り多居津の  
名有と信云合戦の場也是方辰の上り又辰の上り右の中  
白か米多しけ下る未下り田畝限下に臨む年々是  
其石乃のり一宿も磨くとて指へし又成成上り





是の岩又入地守守色山吹の岩ありと云ふはよく  
切ぬ岩ありて水中と流る樋は平野を流ると云ふ

宮越驛

一里半

小休

大津屋  
么た屋

六半  
月三

是の未申より此の板橋有田畑あり川右とをく流る  
此の平地なりを河川に少くも此の邊にて高火鉦を  
恐るる未申又上りと宮川板橋と鐵未申向い電あり  
平川といふ婦人の言と云ふと又申上りた小流り  
崖下小川流るたがく田畑有武斗之園あり又た  
小流るる田あり又流る節未申右の方と山流るとた  
東北村あり村底も相なりあり一樋は流ると云ふ有川有

三間半板橋と流る園あり向く半流ると云ふ岩有氷  
村中と流る家と割木と秋並外しを川有七八里  
板橋と流又上り右れ端有た木之の中右端有いた木  
田畑及平坦は日たの山は上り及畔大石多し是の未申  
下り又家底有小沢村と云ふ川右板橋有是の川右  
後上りり川七八里の板橋と流未申上り右山崖あり  
見ゆは是の成まは川右と流る九石多し川有り  
去り武斗家あり上田村と云此の間地と山約々嶽も栗野  
野と云ふ有がく又上り此の馬士橋の板あり物を  
たまに又未申より川右見がく小川武斗の板橋と流

た石坂上にて天神社有其一上りた白雲の家有又右石流  
永九天斗の板橋を渡り右田邊有此道申商に唐曲と云く  
四所は家流下り向山かつてあると云く申商に又下り  
左右林有波鹿村と云けり左の山に上り村に有上田の  
仲之兼をとり居住の事と云右川向の家の形をい先板橋  
を渡り山と云く申商に將た石流に板橋を渡りた下  
水落のいれ小書流のめり家と建て内か水文の極のめり  
はるものど如く水と交りて流る家の内は白と云く  
左承麦木橋をいれし水車体の住掛ありて末にけり物と  
あるといふも也是右川直下右の山かりてけりた

荒川原を船尾の裏より大黒石に渡り此家のわたりせき家  
にこの裏に小書流の大きな石家の内かりて流書を掛  
せられ流るるを是と云く此石先年此雨の節後の山の枯  
落の家を裏に内かりて由入に大黒石にありて家を  
損さす内かりて小書流のめり大黒石と名有りて  
りし也此書流の根をいれしと云く書流るる方流  
至人名亦新ありて此山に盤石多し右川に  
舟ありて家流も田と名有りて是なりて家流  
是山形の山も此山に右石も川と云く流るるは  
か上りて川向小山村と云く唐流を渡りて右川の勢

大石の上に松に楳有右大杉林是方角末東方に福島  
関隘小砂岩山より里越出口入石門有是と云  
坂を下り岩小入丸門曲又末申上小休入能方の岩あり  
千瓢の石物也

福島宿 小休

友部外

五平村と名  
に所在

是と出々末申にり申はわり又午に時十間斗の板橋を  
渡川西流是所懸川は更々末申に時世因ら出川向ふ  
家居るあたに題目塔有是か上又辰巳上午にり此石大に  
川をり又末申にり小川或間斗の板橋と鐵板更り  
又末申午に備へり又川とらにい更右向ふと云

村居るも末申に坂を下右岸尾武形有たか糸籠のり  
落る右の田也少し以小板橋を渡又かへりさるる  
亦末申にり小村に上上中幸村也おたよも此あふ  
せし岡村と云有し家十形斗有たか水産わをり有  
是か下下又家有午末申に上又午に下辰巳上り  
又三下下た三軒家之右小柄の木有家柄の木と云又  
午に下た水産右石地あり二町斗あり又末申に下り  
半町斗あり又かへり上下し右山角と岩も是か午に曲た  
荒尾武形有是合後村の内也たは寛有大石有け出川  
をりかへり上松林の内は御嶽の洞名有あり

茶屋有字多指と云是か下凡大石多し又時  
未申上りる此御嶽古地<sup>タカ</sup>の者と云へけと云是か川又も  
御嶽ももる凡石仏有川向石に田地家ありと云も  
凡石屋母小石仏式も是か下凡石仏有むあり  
板ももと云向川石屋又上りる凡瀬石表  
河利又り香掛と云出外レる夜も下凡崖上小石佛有  
旁嶋大樹花咲是か下凡大に下り所謂本多此城下  
少る南河上道石垣築也しる也之橋と云川に  
板橋之間石ありははは石壁に此石垣慶安元  
戊子年六月良辰成就焉畢又寛保元年酉十月吉

辰と彫てあり又芭蕉の句牌あり

とあり橋下御嶽川流れて小石川に

落合水赤雷乱石嶮巖赤色いん方石向石の上  
赤松河利け川床く深く水色甚よまし是より  
廻道か下年未申に屈曲し先また小石川流あめく  
流る石式新有是か次方に下り又たか糸籠の飛泉  
漲る水舟付てた曲りき下斗り是道橋の前より  
あり交て糸栗石七橋式之間流り山及曲りて  
建場よりあり

派生新茶屋

一里

小休

若松屋  
春在屋

九時迄  
口幣三枚

此茶屋石物のよし 蕨原と出ス 潔精味也

是の年未だ中又三年に下を式丁にて未申上上枝及有た  
たのけし大石柱にき請く有うなり石と云川向中々に  
家伝るもの山白砂利解く有か、以右系松有向此  
山に白き大石もいながら下東に向眺をよし上松岩  
眼中にんもいながら川の中より浮石と云有川の増減に透い  
浮流と云此辺にけ山多し砂ふかけの流りり未  
申は上上枝及有か、以右中に系松式棟有取りと  
有く川流く眺よし是の中は辰に枝並木は利  
石碑多し又下右念仏石碑有右と田畑に丸地場有

宿入にに坐像の石地蔵有川左に未六七段に橋を渡  
上松宿よ入おむの宿に未六に右水車有か、先と  
小流ありたが未六に寺あり石堂あり山あり寺に水屋の  
申と流る石地蔵あり

上松驛

是と云く未申中商にわる又午に右又辰巳に少上上  
未申に上又午に上上福島にけ田女乃松枝と上上  
至る大し宿外に未申に上川をよし又午に上右系松  
少し有上松の系と云向下に村あり右小尾州白木番有  
た、流訪赤き大石あり大杉林の中に有社小祠あり



阿弥陀小堂有村中沃と云是の古口下た小流末少り流  
斗の橋有是の末上る石家有た小流末又段已上り已年下  
此山陰地蕨多し又富郊に下る段已下た林中小祠有こり  
島有此石及畔大石に口相と彫り有是の石是跡末申下  
た林中茂草有友は石もや株大木の如し合友石上  
石塔有此也云くあり是

寐覚

小休

ふせや  
せき

九月三日  
八時

此石は切石也の如しにて茶屋の如しあり

是と云く少切りして臨川寺に之を採是の石一覽浦島  
古記の如し云柳の岩原風岩谷石家石多天中一石

庭多本

蓮花石多石種これ岩有石像塔等并あり云く六  
及申記いと云も有と贅せは寺上へ出近ひく茶屋  
松と款待は縁記云いと云く齋しと云くあり寺  
亦よ古き竹の干有浦島の子の釣竿と云亦に云く此  
像と云柳有六公涓泊の字なり跡舎の基しと云く可受  
石小之代々の尾公祝植の系松有高附の公の植りも有  
八附と云く寺と云く松小系し段已上り又り右小  
家有是の丑寅と曲り下り十間斗れ橋と云く岩川流  
此を一中井橋杭なりた古より実合小折と云く金堂  
形の如しと云く先川と云く石と云く此をいと云く右れ

岩山より棧及共男と鐵山末申南と云右大樅樹有  
下りて年と曲不た云右方又下れ又卯に下け而少は  
田がと有家居もるも向山と云云多のくはぬ  
るもねせと云小山の川の中にあた山と見方い新と  
小里村と云又年と下た小野の傍有七八男上り落り  
もく二人斗りよ不動の宮有流垂石にくむは  
往還のたけはく道中是近の眺は是よりと云ふ  
橋と鐵已年より此石川傍くとも山の古と流家  
外も山と云ふ多に成りり水地西より少いた流又  
橋有いと云川枝は是の末申上り川よりは在村と云

已年よりお恵の村に右之れ有此道岩山に居し下り  
谷川たが末共六男は板橋と波又少急流有山と橋は  
年と上り又居しと上た古た石有是と下りて川を村有  
莊系及村と云是かこて居しと又上り川をわが棧及と  
鐵山斗り又棧及有支分末申上り此下田地もけと云  
崖山と又村有宮村と云ありあか 是か下り又井と下り  
い下り清水有例と云けあ有又年と下たの石在後  
ありたと家有武斗り切末申上り下と居し下り  
林中小社有又山には社有神波の由た及傍小大棧有  
此新大榎多した石後の上順に棧と外石碕と云



海と云ふ此下川若く一年に上るた水落金蓮寺  
右の家者先の家南小大石有上谷村と云家二村也  
又小卯辰と云り小板橋を越又午はりた葉金木敷  
あり又未申はりた小菊咲花より川高より切て  
松岡村と云有た水落水車有此下川向岩山と云  
を分れ若く有上谷の木立有小谷川たが流小橋有  
き下計村又上谷のり只大石有下谷切たが谷川  
七八里此板橋と云又り家村有大長村と云此向岩  
管と云下谷と云一是又午未はりた大石有一丁  
斗と云又りた大家有人口村の月又午と上川を

左谷川落共六里此板橋を渡又上谷たに家有此板  
急げ坂と云一此下川魚店一向山下に家るあり  
右崖小栗樹植く有此下未申はりた大石有  
祝岩有板と云と有此下山欠山より十或三里此板有  
是下辰と云下り又酉戌と云る葉金上り又未申に  
りる又酉下り又午未下右行敷有た家者是下  
午と糖一九月半此板橋と云又未申はりた頃東入  
此下川と流又午に糖下り又橋と云未申より  
午未と少上り下た石垣上り敷有れ橋は是より  
頃東宿午未より水宿中と流

須原津泊

在陣

七半付迄

此不仕未中に水舟多く有天水と符のし

此日福勝小休と宿割のよのぬは泊る合澤

祝融の災有と宿のの成昔をの依と中津川

宿へきし云銭なり

八日晴

一里可下

今朝卯の舟本松波出と須原津と在宿中

凡小石波竜有氷進来れ中と流るがし西に曲り

小板橋と渡又未申と共六所は此田の里右小家二軒有

是午未申一西に曲り先上り西目下り又か曲り

右小家有是下り右小石松有又下り右家有又下り吉豆家

有三角斗は板橋と渡右小家有是村を又か上り

板橋古間斗と渡上り又上りを曲りし川を又か下り是

申り大酒午未申の間也又村有よき村に村が部しに

小板橋方今井出城の流も又西に流る吉豆家有

凡小氷流小板橋と渡是斗はた小家の小流を合流斗は

橋と渡り又か上り西りて村に川大に流し宿と宿

いそまそ及流く流下りし又西に流る水流平田流

廣く右小流之よき家有か上り小板橋と渡又下り

此山と西に流る右小流流有又下り凡田地も是か又下

川左舟多し是は木曾川よあふは是れは別白木着せ  
及廣く橋を木多し一木未海を板市外家多し  
此は東海にり塔起ちりりも木多し右橋の量有り  
此は下り一は下り只右有又下りたは所流り又成曲り  
家或朝あり又西にり橋木家有たは川に木下り  
西に上り右木家有けり下り村に板起り右木板方小流  
小板橋を成り成り中右小水車を又曲り下り下り井桁の井有  
此は長尾村と云ふ村に外に左栗の古樹有是る板の上  
けり下り大板の方長尾村に仰り者多し上り上り  
西に上り午に曲り上り大岩多し粒木あり上り上り板有

関山橋と云ふ有り又西にり上り木多し右中に  
木曾川にあり又下り木申の上り一曲成り下り西に板有  
川をり牝馬と云ふ又上り上り板有又申にり上り  
又申にり橋子と云ふ西に曲り上り小板有又申にり上り  
村と云ふ古橋有船を川をく及廣く申西にり上り  
下り又成り下り川をり是は西にり上り申西にり上り  
有る多し北にり木多し又申にり上り谷水小橋を成り又西にり上り  
申にり上り村有及廣くた欠山有田の向木家多し見あり  
或下り半木に橋り右側の三ヶ所有右流有己年の上  
川をり一層曲り三ヶ所上り上り板と云ふ上り上り題目増あり

少の山原に於て是の宿に申通り之宿之宿末に大石の  
上社有之宿末申此の周に於て休むの中と流る

世尻驛 一里半 小休 花屋 幸吉屋 上野村小羊と云 丑村系

此外に少の板橋武有右小云けありた秋葉少祠を此田へ  
出に少の谷川武有計に板橋と架け申申申三計又た分流  
板橋と渡り川向に阪倉山にシヤウ云云あり阪倉之のた家右  
田也少のい口及びは是今年此の周に曲りた谷川東  
置り此板橋と渡り橋杭あり是の上り下りありと云  
申申下り右小三計板橋有又申申上り川下にも是の申申  
上り板橋と渡り又己年此の曲りた水原板橋有け石橋多し

又申周に上己年此の曲り板橋と架け申申右子ツリ秋葉屋  
と云有た石垣方是の下大石多し一箇を年此の上又周に申申  
下川を一右小田加る武三所下りた清水流見云け物有  
右竹藪ありと向小厨山ありた及清二大石ありた谷川  
小橋と渡り板橋己年此の上又下右大石有厨山の下水原  
免草のあり一是卯辰に曲りた谷川武有計の橋と渡  
又周に申申少のり上九道大石多し此の平地及原  
家原に有右竹藪畑ありた板橋己年此の谷川に置り  
板橋と架け板橋と架け上りた石と大石ありた地流原と有  
是下年此の休車有是十二滝村に是近のありた板





大石上に龍宮大権現と彫し小石表有北服大石の石若  
窟に成るる系やと云ふが切下七八段板橋と渡たり橋と云  
又四井川大石多し系と云ふし右材樹有畑と云ふが  
上り又下り家有金澤村と云是と下り川向岩山家存るも  
か下り右系松有木根下し大石根後し橋の本系松多し  
山なり是か又か上り下し向山馬或文を何と云ふと云ふ  
系松或む有向山家も此辺陰地蕨多し此石川幅狭し  
棧及を云又石垣の上よりしてあると云ふ上り大石有る  
一曲りたが谷川板橋七いりと云ふはまうは橋と云又上り  
た石の根止天麻州有又車の上り平曲り小板橋と云

己午の方みとの岩に入有少れ場有岩と云

三富野肆 一里半 小休 金沢 河た橋つ 四附山半に云 には付る元

宿外と云坂と下有た水奉るも午とく上申は下又  
午と下た谷水来或写斗の七橋と渡更合色は河津申  
曲り石以は是と云た右畑向山はとも申申ら下り或写斗  
の板橋を或及傍小大石多し川をくはり是も午奉向  
或河津以は石名の官有林の中小有此石是家材と云是と  
云ふは夜己小板橋と渡り又家存は下り系松或写斗乃  
也い手か一歩飛く大石垣有か切谷川た谷或写斗乃  
壁板橋渡家存有池がら村と云おたの村系の方境大石垣の

上に園系先生の獨有け而右石也(市ノ如ノ入口と對する)  
三年(少)以た右石位有和合村と云右石公有清水水脈へ  
水と文家根とを並べて作る酒造り(此家和合を以て  
愛蔵有跡)是を申すに丁斗川の中程に余程の城を有た  
石崖(西)七橋七(沼)と云て然た小橋山有又申すに城を  
西成(西)向い且大木多し(西)少(少)以家右有と云た石(石)清水  
申(少)小橋橋と云又下右橋林(申)親(言)石坂有(此)不(少)少  
た(申)申右馬帽子石有(大)石(是)不(合)渡村(た)水車有(小)橋(或)或  
下(り)郊(下)又板橋(或)斗(或)中(地)村(と)あ(け)ろ(の)山(也)し(是)又(年)上  
及(大)石(の)下(公)清(水)流(出)傍(を)斗(上)白(砂)の上(と)流(る)清(冷)涓

り(少)又(上)年(上)斗(或)斗(斗)の板橋と云家右有又年(上)上(り)  
及(上)磯(別)村(の)垣(有)え(事)少(り)是(を)年(上)小(古)橋(或)又(卯)上(と)  
又(西)上(と)此(右)川(向)義(々)嶽(を)大(山)有(た)義(伴)止(城)の(跡)少(り)  
遙(小)を(山)も(ん)め(或)斗(斗)上(り)又(卯)上(と)右(家)有(川)遙(小)も(も)  
小(古)橋(と)渡(又)西(方)右(馬)家(有)い(れ)る(顧)此(の)跡(を)嶽(重)く  
る(右)其(右)の(方)卯(は)多(く)水(曾)此(を)嶽(嶽)と(も)是(の)  
少(少)以(西)曲(城)山(の)迹(を)通(匠)別(言)れ(有)未(申)少(り)下(り)  
小(古)橋(と)越(又)曲(り)後(に)下(る)上(に)右(塔)有(年)曲(空)異  
板(橋)を(越)西(上)下(申)少(り)右(小)家(有)又(下)り(西)少(り)西(へ)  
上(り)又(年)少(り)家(有)妻(籠)入(口)也(又)屋(曲)少(り)下(り)た



又南上り又未申上上又成実(上年に上る)い雨赤松を楨  
あり是か未申(平地)右畑有又南上上又未申(い)又己年に  
少く下未申上(い)成実上上右小家を形有未申(い)  
か上右家系種有少く平地又己年に上る右家右竹藪有  
是か家被たい雨と下り(い)と云ふ川右下には右未申(い)  
少く上下河赤旗く一面白砂利に向成実(い)右年種有  
螺被のよし(い)右の帯り(い)水元あり是か未申(い)川  
右下に(い)い雨もかけた(い)是より下り(い)板橋(い)写斗後  
たに(い)蹴と云流る(い)右サ(い)斗幅(い)右種(い)右  
落又未申(い)上右木柄の木(い)下右水枝(い)右又(い)右(い)上り

此下北小を山(い)右(い)又(い)年(い)曲り(い)右(い)女(い)流(い)右(い)右(い)樹(い)多(い)し  
枝(い)及(い)あり(い)右(い)川(い)た(い)を(い)流(い)す(い)右(い)是(い)か(い)右(い)己(い)年(い)より(い)下(い)り(い)之(い)四(い)百(い)以  
上(い)板(い)橋(い)と(い)成(い)水(い)右(い)下(い)右(い)又(い)未(い)申(い)へ(い)少(い)く(い)上(い)り(い)い(い)田(い)原(い)村(い)中(い)之(い)右  
欠(い)山(い)有(い)切(い)り(い)中(い)商(い)帯(い)り(い)池(い)写(い)斗(い)の(い)板(い)橋(い)と(い)成(い)水(い)右(い)下(い)右(い)た  
欠(い)山(い)又(い)同(い)一(い)板(い)橋(い)と(い)年(い)に(い)成(い)水(い)右(い)下(い)未(い)申(い)上(い)又(い)年(い)に  
小(い)板(い)橋(い)と(い)成(い)上(い)右(い)水(い)右(い)下(い)之(い)か(い)年(い)地(い)右(い)右(い)畑(い)有(い)是(い)か(い)年(い)に(い)下(い)り(い)池(い)写  
斗(い)の(い)板(い)橋(い)と(い)未(い)申(い)へ(い)成(い)水(い)右(い)下(い)未(い)申(い)又(い)上(い)り(い)池(い)原(い)地(い)蕨(い)多(い)し(い)又  
年(い)に(い)小(い)板(い)橋(い)と(い)成(い)下(い)水(い)右(い)下(い)右(い)右(い)帯(い)之(い)に(い)板(い)大(い)樹(い)有(い)又(い)申(い)に  
上(い)り(い)右(い)家(い)有(い)右(い)本(い)之(い)の(い)古(い)橋(い)有(い)是(い)か(い)年(い)地(い)右(い)右(い)畑(い)有(い)右(い)村  
と(い)云(い)ふ(い)右(い)家(い)系(い)種(い)有(い)少(い)き(い)所(い)右(い)山(い)獨(い)横(い)貫(い)有(い)少(い)し

板橋と我又申へ上又西へ上此下角矢未尾州自來首者  
是か未上りけ交家居よし

一石二里 小休

坂本屋 惣助

八時迄迄 中村屋

此系屋在石と面かく居く系松植の跡也よし

交成出く平の上凡大樹の下石佛有式之寫れ古橋と居り  
水右の末申に曲り又下り凡の橋有交か上り一曲して  
又板橋を渡又卯に曲り又上り東小石佛あり  
か上り上平下りま丁に右小家有又下り家あり  
る岩村なりひびくに延屋交あり是か凡古家と  
小多とつゝ 賣が平地武写斗の古橋を渡まあり

野田成安橋一又下りけけ山かくえ情けは又成  
安と下りた母いざ山か向み十二峰もろ是か来申に  
又曲り下り中に谷川右か成之写斗の古橋と渡右に陰士の  
家とるも家有是か来申下西成に橋一武写斗の古橋  
を渡南に上凡田地有是か成に上子に曲り来申に上り流  
成天と下是馬籠峠と此下別古本岩此以坂と云一  
石のよし是より東と本岩と云是近あり本岩河申の  
作此下と我へ

歧蘓溪路莫究窮 千里山峽一徑通  
湍水西流滌亂石 峻峰南峙連和風

朝陽落月無光彩 碧樹丹楓有化工  
今日谿山同昨日 却教日下往臺中  
宿の入口たれれ場有たれ家並有少々年未<sub>に</sub>下り宿入

驛いあし

馬籠驛

小休

崎田屋  
利右衛門

七河子  
糸

是か又未申へ下又年<sub>に</sub>下見有た水車<sub>の</sub>有又卯へ下  
又未<sub>に</sub>下<sub>り</sub>向ふ<sub>る</sub>長<sub>き</sub>杉<sub>の</sub>樹<sub>三</sub>株<sub>有</sub>家<sub>小</sub>小<sub>碛</sub>有<sub>是</sub>か又  
野田へ出初<sub>く</sub>あ<sub>ら</sub>兵<sub>と</sub>ら<sub>ら</sub>不<sub>と</sub>ら<sub>ら</sub>た<sub>大</sub>石<sub>有</sub>又<sub>坂</sub>下<sub>た</sub>大  
石<sub>有</sub>切<sub>通</sub>一<sub>の</sub>の<sub>一</sub>是<sub>と</sub>下<sub>又</sub>池<sub>田</sub>二<sub>曲</sub>一<sub>の</sub>の<sub>川</sub>有  
三四<sub>里</sub>れ<sub>た</sub>橋<sub>と</sub>後<sub>年</sub>と<sub>曲</sub>り<sub>未</sub>申<sub>へ</sub>下<sub>り</sub>荒<sub>河</sub>へ<sub>入</sub>又<sub>上</sub>右<sub>小</sub>

大石の宿申<sub>場</sub>有<sub>此</sub>不<sub>焼</sub>ら<sub>田</sub>七<sub>皆</sub>海<sub>し</sub>か<sub>り</sub>た  
流<sub>傍</sub>祠<sub>有</sub>林<sub>樹</sub>皆<sub>魚</sub>と<sub>り</sub>或<sub>丁</sub>斗<sub>り</sub>又<sub>下</sub>り<sub>池</sub>田<sub>右</sub>に<sub>是</sub>か  
と<sub>言</sub>ふ<sub>山</sub>を<sub>と</sub>く<sub>ら</sub>あ<sub>ら</sub>又<sub>西</sub>へ<sub>下</sub>り<sub>た</sub>長<sub>き</sub>橋<sub>は</sub>し<sub>候</sub>た<sub>石</sub>也  
又<sub>成</sub>上<sub>り</sub>か<sub>し</sub>上<sub>り</sub>と<sub>申</sub>ふ<sub>家</sub>有<sub>る</sub>籠<sub>の</sub>内<sub>と</sub>右<sub>家</sub>有  
又<sub>未</sub>申<sub>へ</sub>下<sub>り</sub>家<sub>有</sub>又<sub>西</sub>へ<sub>下</sub>り<sub>右</sub>の<sub>山</sub>の<sub>中</sub>後<sub>た</sub>く<sub>ら</sub>相  
見<sub>ゆ</sub>ら<sub>向</sub>ふ<sub>苗</sub>木<sub>の</sub>城<sub>落</sub>合<sub>川</sub>の<sub>邊</sub>に<sub>に</sub>見<sub>ゆ</sub>是<sub>か</sub>年<sub>未</sub>  
又<sub>西</sub>へ<sub>下</sub>り<sub>家</sub>有<sub>る</sub>籠<sub>の</sub>内<sub>と</sub>是<sub>と</sub>た<sub>大</sub>樹<sub>有</sub>下<sub>に</sub>  
落<sub>合</sub>宿<sub>の</sub>木<sub>坊</sub>有<sub>た</sub>赤<sub>松</sub>並<sub>木</sub>年<sub>未</sub>と<sub>り</sub>不<sub>か</sub>た<sub>長</sub>橋<sub>と</sub>  
と<sub>申</sub>ふ<sub>未</sub>申<sub>へ</sub>下<sub>り</sub>家<sub>有</sub>新<sub>茶</sub>屋<sub>と</sub>云<sub>帆</sub>と<sub>言</sub>ふ<sub>茶</sub>と<sub>云</sub>ふ<sub>を</sub>喜<sub>ぶ</sub>  
又<sub>未</sub>申<sub>へ</sub>下<sub>り</sub>た<sub>赤</sub>坂<sub>山</sub>右<sub>谷</sub>と<sub>又</sub>年<sub>未</sub>と<sub>り</sub>未<sub>申</sub>へ<sub>下</sub>り<sub>年</sub>と<sub>橋</sub>



家も有ん坂の門之大松有布分庚子へ下り又辰巳末松こ  
又卯より辰巳下末申へ下午未へ下辰巳末家有田地も  
見ゆ小川有武官斗の古橋と架ゆ又家有園上末午へ上り  
此布多桃灯を懸ゆ大松山之又末へ上右石坂上は塔有家の  
前に市と云て有兎の敷う是午未下る下申へ下り  
又午より辰巳家有一の村と云又卯に橋一午へ下平地田  
有た古橋十武之間渡又末申へ上又平地家有武丁斗坊  
末申へ下落合五席塚たに有小山林の門を注末へ下兎  
虫と古橋十間斗敏又園上り成末に上り少平地田畑有り  
右に大松有是午未上り辰巳末田家も有中津川入地

末申へ下右尾州白木者有成末に上り辰巳下り此交  
松山也又園成と下り辰巳下り又園成に下れ場有又辰巳  
下り上り岩又九天斗の古橋と渡末申上り岩中よ  
七八間板橋と架又少しゆ六七間板橋有か下り上り  
水道の中央と流る中に石燈籠を基のりお庭の  
宿あり

中津川 泊

本陣 長巻つ

六町小半と云

九日 曇

一里半 土河三日土着曇 夕暮夜土河以分雨

卯の別より改宿りと云く末申へ下右小三玉門立る者



武丁斗の板橋を上り又未申へ下り出にあり園(橋)一  
八九られ古橋を渡りかしの又武十官斗の古橋を渡  
是中津川なり是かかしの橋一申園地合かの上平地出  
村有小書場と云武丁斗の水たか来を官斗の石橋を  
渡り又かしの小板橋を越及こに上り右小石境を在  
むと有かの上りく又家有小書場の内也園(橋)一  
三丁下右小川有かしの共六られ古橋を渡未申上り  
午の上り又子七へ上り右石境を未申へ上り平地家有  
駒場村と云かしの午に橋一未申へ下りた右松一株  
あり下に村境の橋ふる下りく平地と火村といふ

かしの九尺斗の板橋を越園へ上り又未申へ上り  
多し武丁斗の末へ下り右大松有小石塚の上り有是か  
池と云又かしの川たか来三官斗の壁板橋を渡未申へ  
右欠小松山なる是か干法林村と云武丁斗の水たか来  
武十官斗の板橋を越い出に桑地のはとばた畑に赤  
大根を畑に村と云かしの園(下道)の右小大松石境  
石多居八幡社有はかしの先にれ場有是か  
千束村と云武丁斗の水たか来武十官斗の板橋方左の  
下に不動石像を此下平地かしの午未に橋一又右(分)  
三丁に水たか来武十官斗の古橋を越三丁の坂を下り水

たふ来に今平の古橋と鐵下斗を又刈上りた赤松有り  
又下りた古砂山に千結林の内之能合下斗は古坂と上り  
右家た後棚有砂山有又かー下坂本と

阪本

一里

小休

阪本屋

伊古馬

五附三松

小羊旦花

是かこ下り来下り年よりと古坂又未申下川谷  
未共六里板橋と後未申の地板板村よき村か切  
水たふ来に今平の古橋と後たれ場有是河斗切右小  
番右岸の古有こら及具びと之く有かーは水たふ来  
二之間の古橋と後朝日初く出氷及の半と後又ま下余  
た秋葉の石段竜式有是か地回た水車か有る

たふ来武間斗の古橋有此辺に車の仕裁有ま下斗  
又古橋有是か茄子川村の園か上右橋山の上云は橋  
妙義橋とま下斗平地切又かー上りた橋ふる礫木  
多し是か申へり昔赤松有た砂山とま下斗の内  
小松花多し四丁切右赤松本井村の橋ふる未申切右松  
小多し洞道水晶びく有た赤松山是か年来未申南に  
橋ふる赤松大松有是か先とた古家並りま下斗平地  
武三丁川たふ来七八里板橋と鐵申南に四丁切  
た大松有た言く大塚と由是か又上又及成と左橋俣  
甚平右橋有此辺石橋村と云松吹山の上と有右山り





又成実上り右角に大石有るは倉門有り右妻神也  
彫る角石は家根して有何の神也是か少くは水石  
末小古橋と汲水申上り 第七凡赤松一株ありま  
上に一株ありた右石有る是成丁に成園(下りま  
を式印した右塚上松有又末申(下家式形有深石の  
内)又園中宿より少くは汲水と下大石有又  
又下りた大石有山上に松有右小家有是か末(下各  
中又成実上り右に大石有下に川あり少くは七六  
古橋と汲水右末又平末に持深谷石(入あり)

深谷

一里半

小休

加納

兵右衛門

九半(小半)と云  
りし時名を記

如く成実上り 第八凡小松塚上に大石は後又上り  
末申に持し又上り六曲して山崩れに少くは向く  
左丹欠山有る上た茶屋有る是権現の山と云向く  
凡ちかき夜己(下り)又末申(下り)右崖(下り)右  
水末古橋有又夜己(上り) 第九又末申(上り)右崖虎又  
ひり是か又平末(下り)右の角に大石有又少くは右山下大石  
有又末(上り)急なり 第十右赤古山権現山右小  
申園(上り)纏松有るの上小石は之右より  
成実(下り)中松並木右石あり又成子(下末申(下  
家あり)大か少くは云権現山の中之是より)成実(上



寺丁斗切申(カ)上た竹藪有又子色(カ)上カ  
成実(上)又酉(上)又未申(上)又戌(上)右、崖大松根を  
取(下)是(下)酉(下)カ

値冬高蒔(カ)言(カ)東願郷(カ)只(カ)白(カ)電  
今日 家庭安也(カ)否(カ)途中送(カ)去(カ)拜(カ)藏(カ)君

成実(カ)糖(カ)平(カ)下(カ)酉(カ)下(カ)右(カ)塚(カ)大(カ)松(カ)有(カ)成(カ)実(カ)下  
乃(カ)石(カ)多(カ)一(カ)右(カ)松(カ)多(カ)し(カ)あ(カ)せ(カ)不(カ)矣(カ)新(カ)棘(カ)の(カ)大(カ)樹(カ)あ(カ)り(カ)右(カ)  
大(カ)松(カ)有(カ)是(カ)の(カ)酉(カ)糖(カ)一(カ)下(カ)右(カ)子(カ)芝(カ)垣(カ)有(カ)是(カ)の(カ)申(カ)酉(カ)下(カ)  
左(カ)小(カ)家(カ)有(カ)八(カ)瀬(カ)沢(カ)村(カ)と(カ)云(カ)右(カ)小(カ)あ(カ)せ(カ)得(カ)大(カ)木(カ)有(カ)九(カ)石(カ)有(カ)二(カ)斗  
切(カ)又(カ)酉(カ)成(カ)下(カ)田(カ)有(カ)武(カ)三(カ)斗(カ)切(カ)亥(カ)子(カ)又(カ)上(カ)大(カ)松(カ)兼(カ)

有(カ)寺(カ)斗(カ)切(カ)申(カ)成(カ)下(カ)右(カ)大(カ)松(カ)有(カ)少(カ)平(カ)地(カ)武(カ)斗(カ)切(カ)又(カ)少(カ)  
下(カ)酉(カ)向(カ)少(カ)又(カ)少(カ)亥(カ)子(カ)上(カ)成(カ)実(カ)糖(カ)一(カ)元(カ)晴(カ)止(カ)を(カ)山(カ)  
右(カ)に(カ)も(カ)丑(カ)寅(カ)卯(カ)辰(カ)巳(カ)未(カ)申(カ)酉(カ)戌(カ)亥(カ)の(カ)白(カ)山(カ)西(カ)に(カ)近(カ)江(カ)乃  
平(カ)吹(カ)雪(カ)り(カ)あ(カ)り(カ)少(カ)上(カ)家(カ)武(カ)三(カ)斗(カ)切(カ)家(カ)と(カ)云(カ)是(カ)の(カ)酉(カ)糖(カ)一(カ)又  
下(カ)右(カ)右(カ)の(カ)崖(カ)系(カ)一(カ)又(カ)糖(カ)一(カ)申(カ)酉(カ)下(カ)右(カ)を(カ)山(カ)あ(カ)り(カ)右(カ)  
石(カ)地(カ)藏(カ)有(カ)り(カ)又(カ)未(カ)申(カ)糖(カ)一(カ)平(カ)地(カ)右(カ)を(カ)山(カ)名(カ)又(カ)平(カ)上(カ)糖(カ)一  
寺(カ)斗(カ)切(カ)申(カ)未(カ)申(カ)下(カ)右(カ)右(カ)系(カ)土(カ)崖(カ)又(カ)平(カ)下(カ)未(カ)平(カ)地(カ)此(カ)是  
木(カ)武(カ)本(カ)二(カ)斗(カ)切(カ)申(カ)之(カ)の(カ)松(カ)多(カ)一(カ)此(カ)田(カ)皆(カ)平(カ)山(カ)之(カ)三(カ)斗(カ)切(カ)酉(カ)  
少(カ)上(カ)未(カ)申(カ)下(カ)又(カ)平(カ)上(カ)糖(カ)一(カ)右(カ)石(カ)橋(カ)石(カ)小(カ)祠(カ)有(カ)林(カ)中(カ)に(カ)有  
毎(カ)天(カ)の(カ)は(カ)し(カ)か(カ)の(カ)地(カ)有(カ)社(カ)の(カ)後(カ)小(カ)穴(カ)有(カ)是(カ)の(カ)酉(カ)下(カ)又(カ)申(カ)





下り先右母松乃大杉其、梅之少以家非た古松其有  
又申(橋)一(成)兵(山)の家非た下り田(山)是(下)古家並  
七藏(山)と(山)の(山)村(平)岩村(山)水(山)来(七)男(山)の(橋)と  
波(山)夫(山)水(山)の(橋)は(山)是(平)岩村(山)の(山)水(山)の(山)は(山)是(山)り  
上(山)成(山)兵(山)申(山)又(山)酒(山)上(山)少(山)平(山)地(山)右(山)母(山)石(山)垣(山)其(山)三(山)ツ(山)石(山)室(山)と  
此(山)石(山)佛(山)三(山)佛(山)者(山)此(山)石(山)佛(山)也(山)是(山)酒(山)成(山)下(山)又(山)酒(山)下(山)兵(山)原  
涌(山)池(山)之(山)少(山)以(山)申(山)酒(山)上(山)酒(山)下(山)未(山)申(山)下(山)又(山)酒(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母  
丸(山)石(山)の(山)多(山)る(山)是(山)酒(山)成(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)又(山)未(山)申(山)下(山)三(山)ツ(山)石(山)室(山)也(山)  
成(山)兵(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)上(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)申(山)酒(山)  
少(山)下(山)又(山)未(山)申(山)下(山)成(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)申(山)酒(山)

又成(山)兵(山)下(山)中(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)申(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)  
下(山)り(山)並(山)申(山)酒(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)申(山)酒(山)  
未(山)下(山)り(山)又(山)酒(山)成(山)右(山)崖(山)家(山)有(山)友(山)け(山)と(山)云(山)是(山)未(山)申(山)下(山)切(山)通(山)の  
也(山)一(山)並(山)成(山)兵(山)原(山)下(山)又(山)下(山)右(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)申(山)酒(山)  
酒(山)下(山)り(山)並(山)申(山)酒(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)申(山)酒(山)  
海(山)と(山)世(山)村(山)之(山)又(山)下(山)右(山)田(山)畑(山)山(山)此(山)男(山)平(山)地(山)を(山)下(山)斗(山)り(山)て(山)  
未(山)申(山)下(山)り(山)並(山)申(山)酒(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)申(山)酒(山)  
右(山)田(山)畔(山)大(山)石(山)の(山)傍(山)水(山)之(山)も(山)水(山)右(山)と(山)流(山)流(山)合(山)て(山)小(山)川(山)小(山)川(山)の  
共(山)間(山)に(山)板(山)橋(山)と(山)渡(山)酒(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)又(山)酒(山)精(山)少(山)下(山)兵(山)原(山)山(山)母(山)申(山)酒(山)  
来(山)り(山)小(山)土(山)橋(山)と(山)渡(山)右(山)家(山)有(山)是(山)下(山)り(山)少(山)下(山)酒(山)上(山)右(山)山(山)母(山)

田也又上り申へり右石坂の上石垣有又平末へ下り中  
田右家也此辺を旋の木多し又成変上り右石崖又上  
上又成変へ上り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
上り上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
是が成変右石垣有右田た山なり又上り上成変へ下り  
あり又上り上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
た谷又かへり上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
又上り上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
右家大松有又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
十奉成村有右山田なるあり又上り上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ

石表武之是二吞清水なり是が成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
あり又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
かへり上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ

十奉木

一里半

小休

塚中屋

利右衛門

廿四之迄

又雨来

成小成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
小徑み小祠有かへり上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
下成変へ下り上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
天王有又かへり上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
水流石多し又上り上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ  
又上り上成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ下り上成変へ下り上此山岩也又成変へ





右向小元山石多し武所より東申へ轉し園地あり上  
又平地左中松林右見ありし此ま初黒土と云ふ法地  
松の中し木あり赤松のこも思松やし九所あり古塚有  
榎と松と植り四丁以下は下是を成実山に成り  
平地三四丁以下は松林あり成り下又平地赤松林を  
三丁より家屋有今渡村と云大松有右小山の上の厚り  
麓麓小洞有浅沼のよし例の天王洞有少し又家屋あり  
天王小洞有此山より昔の麦や粟底多し村赤林中み社有  
居る多し此村末社家屋よしありた石と積りて五  
小洞麓麓有是かあり申轉実子曲り右小洞有北尾州

領の石表之又園へ下り宮へ下り大田川のももへ出り

大田川 弘渡 中廣し今日三丁向  
弘渡し今日三丁向 九半村之渡

川と越東の方特子山より北川木曾川花弾川廣公の  
下と河合と云川下は麓越川之麓越川ハ中山及の内也  
まが桑石海へ流るし此下にくみ是を桑川と云  
園(の右)の方下り家有三丁以下右小松根と云  
石佛ありあり古塚有雨止あり成実(轉)し石の  
下にも小川有大田の支流なりまもる(り)石垣の  
上家有り是よりわくと右畑た川こがけ古石後  
の上法華塚有少し右れ場是より大田村こま

斗乃古石垣の上天之小祠有反折也小石垣竹垣亦有  
末小祠有是成園宿(入宿家並也)

大田驛

二里

小休

坂本屋

石屋

八幡宮  
日新寺

出外し右小札場を是か午に曲り右小堂有又園(曲り  
行書り)庭陳屋有虚空藏の寺有庭古く是か午に右  
川にたむる也向山天神の祠と云又東申(三三)右法堂と  
云古者少く右石坂上小祠三堂有け不並才大松有園に  
持し七八りの板橋を渡川右か木右小成宿の部不し  
木表之是か川と離る右坂倉村と少く申持又園(切  
天神山及小をし)岩山と云所斗の家有坂倉の園大松

有三斗乃先橋換した(曲り)小谷川を渡り右及は野り  
き斗乃のよりく右小成別院の石表之少く右石像を  
大岩山魁吹山と云成園(切)右元山あり二三斗乃右  
石階の上増築之け不た山の新流あり事及はし  
三斗乃右林山の上に石壇有上り換もる也法教と云  
是か坂池村とよき家形(竹藪多)少く成と水並  
以三斗乃少く下板橋三斗乃法勝山村に又右  
神及宿有此不しと地之の昔其風烈右向家の裏右  
地之村とよき村也

勝山村

二里

小休

池之

八幡宮  
日新寺

又石表

是と出て少一箇(下)右枝川と後箇(以)河系と是  
大田川の下流に右岩山の嶺に是を申は上り又午止子  
亥と又三年(下)右岩屋観音及有又未(下)又右観音  
河の下に右村移て後岩あり岩有け此系及はし  
大田川系一西より東三所斗申箇(轉)左平之武野斗  
の板橋を越水右未又未向三下して箇(向)小橋と後  
又上りた岩山下の昔也又未申は上此亦そ雨止日つる  
先に観音とと池りしより雨はく観音ととるも申  
是か申箇未(轉)右に又上右欠山を平地未申(向)

右下に方池有濁り池と云はし午に下り向ふに大田川の  
下流にあり箇(下)未申(又)あり下右に川の池と  
云有干池あり又未午より又箇(下)上れた下に下流  
小橋橋あり丸山有又午未より下い口系七及二車  
下右下け山又午は轉下り右昔田あり又申る下  
右谷及山之連に切通と下又右谷又未申(轉)平地  
大山城及にあり又午(下)家有物浪の内けいとの内小  
背掛天主坂と云下有石あり右小石塔有是か  
林の里と下の家有半斗ありた田地岩山丸くあり  
是か成箇(轉)右札幌一河斗は水右未申(轉)此

板橋と渡及の中に石籠庵有水中と流る一武内川  
右方来六七里此板橋を渡り右又右本陣と

新派驛泊

本陣 梅井を在り 七時小半迄

此所へ尾丹公の御使者有とく上下せし夜出に使者  
共へも更と御守り中夜より迄せし國の御斗と  
大青元とく言ふとめりく度とを旅の宿子とくし  
言せし九日用のものせし有とくお魚とく作御とく  
これに自ら出送二万女指して山首とく申し  
き旅の中も 公の御心かけりゆも曲故に成り  
告朔の礼とも云ふ事成れ其指とくしりり

留まるとせしはあはれに申すに答らるる  
たと有はしあはれに言ふとくり集式とくし  
たと旅の中もはる節の有とく世にせし  
あれとくも 公の御心かけりゆも曲故に成り  
けり

十一日

朝堂已 庭子か使時

今晩寅の形とく次に省別の者かの文来とくし  
来ル十四日よとく大津津よ宿とく日つとくり  
此夜

御座位のみありしはるの 御使とくお平渡り



をさうしなむるに始りて彼人十四十日に  
こゝより馬を御先調度せしころのありし  
とらふし保まきさうり高家元田は母の也  
言承運公の御子と松平出羽守にけり  
依りてなまの多かれは余の泊と別  
今日赤坂泊り八布色型り十二日今頃泊り十三日  
多布本十四日電知川十五日守山十六日大津と  
別記(きよし)云々

今朝之卯の邦に宿りて酒(り)右石坂上に神位の  
千石方宿と出切り神田(出)右大山城あり矢倉樹木

降ゆ少くは又家宿有右石坂を又少くは石坂と  
石地蔵有此先いた右家宿し中村と云三所いた右  
より河地と云ふ又武三河は右玉垣と云ふ  
天正社有流云と云ふ或人お對し兼て榎右此村及  
廣く平畑と云ふ又右に方電宿大石多宿梵堂有出切り  
反右松並木右山有六七河は右小尾川傾と云代右木  
坊尔有又六七丁と云ふ右松林あり  
右右敷中小大榎樹有又三河は右京代右木下尾瓦  
傾の坊尔有右右松林あり右小尾川あり松苗と云ふ  
又十丁斗は右家右有二反新田と云世間九云はし京

天王河有合口小祠二石垣の上小有是ふふえきりて  
又並有た大松林右林の間に元山なるあり右林をて  
系有尾州領の石表有又或斗切た古系た向を山  
るありふた南の方ふ見此不宮の方ありよし六七丁に  
家有六切茶屋と云ありた古塚上松有右の松もとに  
ころ大松は是と又並及四丁に木たを来小橋或は鐵  
たん清じよし右向の方元山の下のまゝ本まゝる金糸の  
よりわらふの元山波年古城記右ふは少間と城記と云  
い旦産地お後各智地と云流ヶ系とも云方三里有といふ  
是近園の方(出及平坦とて三場のあり又七八丁に

一処底有いりも茶屋と云各智村の間に古指有り

鏡村 小休 いらは茶屋 五丁と云 小羊と云

出く又園(の)兼有右向に元山保山の上よし右向の  
山養老の上よし其下はた古系細もあり又四丁に  
家有新お納村と右林中小赤系居る西山の上よし此界  
表系底なるた古塚上板と板は南右の上秋葉少祠を  
出たれ場有是下子(物)一(物)又園(の)是下  
た古灌本林ありおと並松有二丁斗はくお下た  
溝池有是下古田を並松有其下はく申物三丁を  
家底有言田村と云あり又園(の)是下を或下を或(物)

川右ノ末十間斗の古橋と波又圓以成と向き丁余と又  
申商上りか切倉と地村と云々村に右ノ法形と云々者  
出切田の向小安友對言も陳念るも成上りた林神神  
社有是か切通村午にも丁斗切も力庭以神友有この  
横丁に之地之此村よし

切通村

二里丁

小休

カカ権及神  
地之

四村首之  
四付之元

此社大つ長くよき社地なり洞多左類なりと云

是か成は向かう切右こち有常類と云あゝ右陳念  
喰遠王もるも或三丁切右家友田是か又垂木成上り  
た通地も性是の中成通南りた向小加納の城塚あり

右親秀の旧伝有と彫る石表之ちハ直性と云細細  
村と云よき村也其丁切た古塚上横と種と云た石地  
藏有先事と云と云と云此田願り村と云是か左  
竹敷のい田枝糸のと成取是か左類家並天よし  
出切て並木道成願か納願の務ル有西成切是か  
上河子村と云あゝと云のりかゝ地ハ細細の地  
七飛遠及念事よし二面切右れ場左熱田及の石表有  
古(曲り)向ハ八幡石多有是か中向かう切川右流  
十間隙の板橋と波と丁余切又圓以神清及事切  
川右ノ末二田間の土橋と波と申(曲り)末末を向て

寺あり又成実山凡觀音四尊のち有三丁そ又年へ  
由り古ふちあり由り川右が流る九間の板橋と屋敷  
大寺あり成実山由り宿外の家又宿あり

加納驛

昼休

けりやき

四半時迄  
九時半迄

此石にそく及中より更なる者か綱二層と記り

魚沼交え干 此石を初めゆくと見ゆ

交成出く園(り)右天神社有じ宗祀のせ級(り)武丁  
斗のく右に社有か一先にたち有又武丁斗のた申  
堂あり武丁のりか成実山橋し武丁斗のた有  
且輕苗所有此辺八角の桃灯と張居る左神明宮有出

外し其石の小土子有是(園)のた右家並ふ有清村と云  
出切くた古塚上松と植右小由之有山信長(跡)のし  
武丁斗のた流武男汁の土橋と流た古畑(り)四丁そ  
成実山橋したん晴し武丁斗のた又土橋と流た武丁斗の  
又土橋と流た武男汁の材(り)又右村とあり是(園)兼  
松有まの余そ小流右(り)武男汁の土橋と流た古  
田福熟(り)武丁斗のた又土橋と流た古畑(り)武  
た右家有(り)右(り)武男汁のた又園成(り)武  
まの兼木(り)武丁斗のた(り)武男汁のた(り)武  
又繩子武丁斗のた(り)土橋有角(り)東(り)加納領(り)石表有

右溝也丁斗以右小又板橋有少之成安に橋土橋三四間  
越又家有東渡島村と云ふの以右小大師右像有と云  
右表之式三丁斗に敷中板橋有又家有右竹井中  
多の板んあ少先右の方与有乙津と云又切以右之  
松大樹部有是の木多し是西渡島村三丁斗以  
右林中社有赤鳥居之又三丁斗以右大池有是の園行  
右家表のあす天家有少先右谷松表有無終と云  
有此田家后皆より漆河と云が上り川橋(出未申)  
共三丁斗以渡取(出)

合渡川 九半村松 川中平向斗 水端の津 西南流 贈の漕出 渡取の橋

波牟の西小  
長根川と云  
有りきこの  
上りこの  
かしこの  
十丁斗川上  
と云又この  
合渡川と  
云別例後  
川の上也

渡と飯川口の坂と上り丑寅(川に流三四丁斗)酒(持  
宿に)此宿去年の水に流矢の止(家造皆好)

合渡宿 二里六町 小休 外庭 太会宿 九半村松 八内子奈

此宿表の名物之矣此にきり大なり粘有湯と云く大  
おの八丁斗三丁斗あり是と来く昔に味は佳あり  
たりぬと云也

酒(少)以右小社有札幌と有と三丁斗そが少中右右  
喰遠土子有是と云く並木た田畑る也三丁斗はく  
法余川七八町土橋と渡是の酒成の方繩と云け暇  
びまの繩と云右を山たふん凡起八九丁斗成云

勝又、九丁の家有生津村と云あり、と云或丁とてあり  
 上り下り、奥の少くは小板橋を渡、道古小北東に半を  
 渡、城領と云橋尔之とて丁半の川右を来十三間の板  
 橋と渡、是系如字門に向たに地氣小堂有ありと下り下り  
 又申、奥の村家有小田村と云三丁半の又川右を来共、此  
 土橋と渡、又之丁半之出切右に土橋と渡、た右田畑  
 也、此中右後口と云い、成の七丁半の川右を来十丁半の  
 板橋と渡、九丁の家有堂、是名ものり、と云、亦、ち有よき  
 寺と云、丁半の古行林、是有自然、堂、是名、此の寺、土橋  
 有是、中、未、勝、石、入、あり、右、ち有

美江と驛

二里半 小休

ろいや 久吉苑

八丁半也云 八半村有

此岩あり、此と云此休、ころ、茶屋、ハ、善信の、お、好、服、を、と  
 妙、し、ころ、の、也、茶、室、が、と、も、有、桐、木、乃、椽、や、と、松、と  
 好、多、を、お、せ、り、小、休、を、い、は、し、ま、す、く、花、の、家、は、し、是  
 宿、半、里、半、北、美、兼、村、凡、の、名、不  
 交、と、云、く、午、上、り、出、切、の、功、多、有、半、所、斗、ま、し、か、上、た、橋  
 有、奥、下、り、地、田、左、半、地、有、あり、川、右、を、来、土、橋、十、間、後  
 川、上、ま、く、罽、網、と、い、は、し、り、半、の、向、よ、堂、有、十、代、公、と、云、ま、か  
 午、一、曲、り、公、目、村、あり、い、は、し、小、院、と、云、入、主、と、云、ん、か、り、未、申、に  
 勝、川、と、た、た、る、今、の、西、勝、た、教、古、田、知、是、か、あり、未、申

平にわたり申田橋一ト松葉原畷に右田右  
 池田山更西より次山より養老右向より之を南に桑名の方  
 のよし四丁切川右を来七八段橋と反けま申  
 切六七丁に橋一竹林とをり後がより申橋一  
 末(橋)又申(下)並来三丁切末(橋)右反担より右  
 是方右家右村と云三丁村より右赤石右を  
 往より白鳥明神と云三丁余之成園橋より又赤石右  
 ちあり又園に曲り川出より此の家迄皆の橋より右  
 匠一(亥子)三丁より海一陽と出

呂久川

船渡

川中廿四丁間  
東南流

七村を渡

長瀬川に云  
川と云

川と渡り申より右小川柳大樹多し兼瀬村より  
 二丁切末申(土橋)拾三丁間渡川右を来此(大)流にた境上  
 札建流の中川極多し(斗)斗にて大垣境上より右  
 流也右に大垣城なるも養老山も此境成亥(三四丁)  
 行申園(橋)右流に田右(方)方より上子四角に有柳の  
 口有三丁あり又園(橋)是(成)亥子の間とより十丁切  
 境よりあけとると云並来有園成亥の右か此(橋)一  
 小溝川右と流大垣境右より共六丁切園成(橋)土橋と後  
 右池有川右を来池に入右向田中二町と林中に家なる  
 此の也(三)三丁切川右を来三丁切の板橋と後家有

三河原村と云ふ夜(三河原)右に丸場並に古き紫の藪  
有也又(三河原)山切二回斗の土橋有也又(三河原)  
三河原川右に米四回斗の板橋と云ふ(三河原)又(三河原)  
三河原又(三河原)小土橋と云ふ又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)

丸に又(三河原)有也又(三河原)山切(三河原)右に丸場並に古き紫の藪  
有也又(三河原)山切二回斗の土橋有也又(三河原)三河原川右に米四回斗の板橋と云ふ  
又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)  
三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)三河原又(三河原)

赤阪宿 泊 中陳 矢島廣助 七付小半止

此宿進坂七乾付此(市)云宿内は客扱有也

十二日 晴  
二里十二



今朝之郊乃半と云々以赤坂の宿り、以出く西の方へ  
去り斗の女へ申申り又去り斗にく右の宿ありと云  
寺有又申西へ去り斗の出切右京有是の並松の及を  
以たに宿ありと有四五斗の家有是坂村と云お及也  
申西へ去り斗の右にれ場有如赤と云去り斗を去り  
、並赤坂の北に甲塚と云有はしをれとも不見しと云  
又去り斗にく青墓村あり山の家を築乃架多し  
去り斗の右に宿有氷武助右京未四五間此橋と後り  
、二斗の右に宿長に墓有右田畑の中松一棟有り小  
、巴女汲ると云井有はし此松と云此松と云此松と

出切兼赤川右京未七八間の上はしと云後赤坂の北に  
此の内系類と長者居しと云有はし不見し  
以て右の田の中小丸あり有はしと云有去り斗の  
、青地村あり、斗の右にれ場有去り斗の右に宿あり  
、彫る右表の、斗の出切兼赤川未三斗にくた古塚上小あり  
、棟あり是の古権木林也いさ下宿へ去り斗の右に  
、亦有赤松林有並木大松多し左あり赤松林有去り斗  
以て左の林は此畷のうちにたに長松あり見の松あり  
、城今地ありと云此のドクイと云無果花と桑乃紫  
に似たる木多し油と云はし五六斗の追分と云

是桑原及と中山さとの邊ふや左札場有りか  
午未に橋一土橋八九間坂左石表之西一か橋  
又午上橋一十四間渡川右一未是あひ川一是言井宿  
入口也一橋一又申西又一橋宿上水匠の家也

垂井驛

二里半

小休

飛丸屋

二まき橋

土内小半と云  
半時子と云

是西一向一左に南宮大寺有額小正一位勅二等  
金山表大神と有一二丁一原小本寺有一二丁一に  
出切右左土子一上一に小祠有一橋西一并一右  
稻荷小祠有一此一略一も左一ト一ク一イ一多一ハ一九一丁一の一垂一井一岸  
と一西一有一左一南宮道の石表有一か一成一実一に一橋一

小流左一未一小一板一橋一と一後一が一と一又一並一木一西一の一此一略一左一  
南宮山一の一左一に一流一れ一と一云一ん一共一二一丁一に一は一池一上一村一の一跡一安一  
旧跡寺一に一塚一有一は一二一丁一の一川一左一未一共一間一斗一の一土一橋一  
を一後一申一西一の一二一丁一の一左一寺一有一入一口一石一表一之一有一此一四一家一は一  
又一小一土一橋一と一後一右一札一場一左一に一石一垣一と一家一有一落一の一子一枕一  
多一二一丁一の一か一橋一小一土一橋一と一後一が一と一申一西一の一家一所一  
大一に一は一二一丁一の一出一切一此一邊一に一丸一木一の一志一と一女一有一並一木一  
を一さ一山一由一二一三一丁一に一は一左一小一祠一有一か一橋一と一云一ん一は一  
鶯籠山一現一女一の一墓一有一注一置一か一不一見一是一か一又一西一へ一二一丁一に一  
か一つ一上一り一切一未一申一へ一か一橋一下一り一又一西一へ一成一実一と一云一ん一は一



滝と云又三丁以水左と流々未申(指)又年と方か  
先中村と云左林の中に常盤の墓有是と三丁少申  
西上橋並木三丁斗以少と上り平末に橋是丁斗又度  
向左右山是山に流り少と上末申(成)実橋申る下  
左側分境の橋亦有右山下に小祠或有少と下左側  
土子有是今頃入也西と下(成)実と下申西下下  
親重旧跡の石表有少と上り平地面の(成)式丁  
川右より七八間の板橋と流り本宿と右と上り有  
妙蓮寺と云三丁以右れ橋相左の宿の家と流赤又の  
壱多と云三丁以出切川右より七八間此橋有此宿

石と上り石根多と一板皮昔も西三丁斗以左に赤多  
有八幡の(成)此下と上三丁余以出切並木(成)橋三丁斗  
少と右約有石垣有(成)実橋と少と上此(成)車道と  
板と云今頃(成)是之余(成)下り中流たか来七八  
土と云と(成)平地並木(成)又三丁斗り少  
西(成)と云と村と云少と上り(成)流とに(成)境の橋  
右有たに(成)境の本表と云一尺斗の小溝と隔  
(成)境也依り森(成)路の里と云村(成)是より  
申西三斗と並木右山(成)五丁に(成)西(成)少と平地  
四五丁右(成)根と云(成)石地蔵有少と(成)法華橋有

又少の林中に大神宮有る石焼菴有是下右山  
新林成左田也い下少一未申と下石上層有石佛有  
又平地園(町)尾北七八町の川左分来武呂斗の土橋と  
渡宿合約あり垣有き丁斗の右に社有る存あり  
也小体上入

柏原驛

二里半

昼休

三浦屋

助次郎

九時迄  
小半三茶

是と出く園(町)右小寺有少の右宿あり返の家並也  
二丁斗の川左分来三間斗の板橋を渡右札場此世  
神教九と賣茶舗多一三丁にき未申(橋)家造屋  
あり此辺と冬凡多一又三丁斗の左飛やと云文

屋の隈大板有是下園(橋)少の川又橋一上川左分  
二間斗の板橋と鐵平地又筋邊に土橋を鐵申園(橋)  
二丁斗並来出切の約あり垣有る念仏石表有山石  
有其下とけ未申の園(橋)右欠山左田の三丁にき下  
と未申園(盤)桓一とけ七丁にき左(少)上右古所  
林垣有石石土石有未申と又少(橋)下家長以村と  
園成未申の間とけ入は田の中三草蒲と有き丁斗  
い又畷(出)園(町)の三四丁にき下此畷左右山並木の  
松多奉多一是か山下とけ未申(橋)又園(下)右札場  
平地家有持村と云け板志うい坂と云右山流有家この

お小橋と第の右意宗寺と云ち有丁水切がた橋  
より成更上り右家右梓材の内二階家は又西  
武子に川右来四五間の土橋と後此邊に玉置好大  
後河の是が並木大松多し五丁以河東は名川左来八  
九段土橋を成亥(後又並木と河成した山下林切  
右芳池灌ちと二丁以右柳園有是が一屯村に  
此四丁材多しお左の村に二丁以右古塚有上段と  
橋より右寺有二丁に橋下又中(上)る左岸  
崖の川若きも平末(お)橋右小田家る西是が二丁  
に橋より右山原の東表右に之りて右橋又たお

橋一末申(お)岩又た右坂有其下清水流養老の  
流のよー水中に孔立て有海押石地死堂有此別  
醒ヶ井の水也此にお水は山原の火蛇害と成と  
日本武吉良路一多し一後山を地隠一うりる此  
水と香石の腰かけられ口足と次一多し一は  
醒ヶ井よりさ免ヶ井とよし此右お左の家地を  
此清水の向出て第屋有

醒ヶ井驛

小休

酒屋 幸内

八時迄迄  
小半とる

此茶屋小狭無準掛物古画梁る画

出く申酉(お)九六斗の川右の中と流る二丁以右

有又三丁に川左末武町斗の板橋と後年未(町)  
少申橋西(か)上左岸右土町家有少以約岩石植  
有是を並木左に小家の松あり有是を成兵少(町)  
川左を末武町斗の土橋と後西(町)以(町)破た(山)田破(山)  
三四丁に少申橋北下右郡山頂の橋亦有斗以川左  
末十四五町の土橋と後申(町)四五丁少(町)橋家有(町)打  
村と云川(町)に(町)と云(町)し(町)の村(町)小溝川(町)と流(町)三丁  
斗(町)石橋と後(町)是(町)川(町)鴨(町)た(町)と流(町)是(町)並木(町)と云(町)  
右に家有極村と云三丁に少(町)教家並川(町)た(町)と流(町)少  
新木(町)少(町)流(町)村(町)三四丁に少(町)年未(町)橋(町)切(町)七(町)橋(町)と後(町)少

申南(町)少(町)又家有松木村と云流村(町)右(町)約(町)少(町)少(町)  
家有少(町)未申(町)に橋川(町)右(町)末七八町(町)土橋(町)と後(町)橋  
流村(町)南(町)以(町)右(町)に有(町)徑(町)寺(町)と云(町)五六丁(町)に少(町)年未(町)橋(町)  
右に竹藪左田(町)少(町)久礼村(町)と云(町)少(町)斗(町)に少(町)西(町)成(町)橋(町)  
少(町)少(町)又(町)乙(町)年(町)少(町)又(町)未(町)申(町)以(町)右(町)並(町)木(町)右(町)山(町)上(町)三(町)丁(町)に  
又(町)少(町)少(町)昔(町)端(町)岩(町)入(町)申(町)南(町)中(町)通(町)り(町)の(町)着(町)少(町)少(町)少(町)に  
友(町)の(町)少(町)村(町)有(町)三(町)斗(町)の(町)圍(町)少(町)少(町)少(町)か(町)少(町)上(町)西(町)以(町)右(町)山(町)及(町)の  
少(町)流(町)有(町)一(町)斗(町)に少(町)未(町)申(町)橋(町)一(町)札(町)端(町)有(町)長(町)少(町)未(町)申(町)橋(町)六(町)丁(町)  
少(町)出(町)切(町)石(町)植(町)有(町)是(町)少(町)並(町)木(町)右(町)山(町)下(町)田(町)畑(町)有(町)水(町)土(町)少(町)斗(町)た(町)と  
流(町)少(町)少(町)以(町)家(町)有(町)元(町)昔(町)端(町)村(町)と云(町)少(町)昔(町)端(町)岩(町)少(町)

八葉山蓮花寺と云有左平記云昔湯上堂と是より  
仲村の堂四百余人自製せし事去此右有辨世も有  
元もん小松松木義なり多し二三丁に右と云應吉有  
一丁余切右小堂有右壽と云是右年少く抄出切り  
又並来少少の年未と抄水た流る二三丁に未申抄し  
山中と云二三丁に又年未と抄三四丁申酉上又戌抄し  
又申上り是多右端の赤山と云丁に酉戌又下り  
申酉下又未申へ下右山下山岩田欠山も又申へ  
少く右にやうも右岩有又少年へ下又戌亥右又年  
或う申と又未申が年抄戌亥へ下又酉抄右古田畑と云

左右塚有上樓と極より是の摺汁村と云あり是の事

摺汁流

小休

田中

九龍寺

七時迄者  
半時程

此茶屋定例のよし自在所と云ふ左邊縁の取水一面に  
足竹生路ハ戌亥の方島山ハ戌亥の戌亥ハ取水  
ヤうとく路のめくも湖取水と云へ大池の  
わく竹生路まて七里方と云晩を級妙

是と云く申酉へ下り子七下又午へ下未申へ下右  
大松有又酉戌へ下り又未申へ下右山右田入にもも  
是の平地酉二三丁に矢倉村右小谷汲の岐及あり



少以川左来七八間の土橋と鐵未申(り午へり)  
左若並未有左に川有四五斗に之已午橋一若今之  
未申(橋)れ場有又左(曲)り本若也能若也  
鳥居中野 泊 在疎 七中野之若

此若若一多突の大多若一(り)し依之若に  
居り(り)ふ

今曉若割の者か松平濱州(東海)を河支(三日)後  
辰(河)守今日(初)此(河)泊(定)先(守)山(の)如(言)家(流)  
泊(成)り(採)鐵(並)洋(泊)り(波)大(津)ハ(年)既(言)は(り)也(を)  
差(支)也(無)き(下)し(り)鐵(れ)ハ(翌)日(供)若(子)く(改)入

十三日 二里 雲 尚三(情) 四(河)以(雲)直(情)

今日(之)曉(寅)乃(并)より(に)若(り)と(出)る(午)未(三)丁  
川(左)亦(有)五(下)切(山)切(河)多(主)也(有)是(午)未(辰)  
田(こ)たり(山)を(一)三(丁)中(を)川(左)来(土)橋(向)本(河)田(置)也  
村(有)百(村)多(村)又(置)丁(に)出(切)並(未)左(右)田(畑)午(未)へ  
置(下)切(家)中(有)た(茶)店(の)き(家)の(極)た(小)河(裏)有(上)家  
見(多)也(若)左(島)若(田)是(左)右(を)一(七)八(丁)を(村)有(山)地(村)  
と(云)ふ(し)は(田)少(地)の(細)及(石)而(こ)た(家)入(水)流(し)  
組(を)交(り)ぬ(り)友(柳)有(二)三(河)切(又)並(未)有(左)右  
田(先)は(水)を(七)八(河)切(左)右(山)か(一)又(三)四(丁)に(之)く

村あり原村と云能事村一或丁に少く兼木有家有は  
少くはく又兼木左木を二四丁に少く大橋川云川有  
池是板橋十或之間架ス右小土橋之間斗有是為人乃  
通流なり河東廣く水東西へ流る上りく兼木河  
村有大橋と云右小山の上に石燈籠あり岩清水祠の  
すし此而土藏地りの家多し三四丁に兼木左右山  
を七八丁に少く岩入口約岩王子有岩上入或丁少く右に  
多右あり又き丁斗に少く左多賀社大右有石に少く  
大がもこがし先小石橋と云丁斗少く右山に是は  
兼木に少く記不詳

高宮驛

二里六丁

小休

言能や

六町着  
川東三在

夜明く此而と云出に出切川有言宮川と云丁宮斗此  
土橋有其在に世空間の板板橋有河東廣く川水少  
右に川中と云未出りて上兼木有之と云  
二丁少く上り小川左兼木之間斗の石橋と板橋に  
右右土小石垣は切溝有少くは左右塚上ま川と  
哉く又かひ村有中庭に右大松有此所有流  
所といふつら石物のはし二丁に少く兼木の左右田有  
此辺乃は兼木に少く板橋と云一並上方は流るや  
と丁少く又村少く村の内家多し二丁斗

以右に地藏堂に〜又三斗に〜右に有る法寺と  
云白梅の〜北邊未申の三斗に〜申商の  
家有中通り三斗の又並木有左右田畑を  
里の村有あま子出村と云三斗に〜又並木午未  
申乃間を〜十斗に〜四十九院村各  
家三斗に〜たに祐急も有小ち〜又三斗に  
小流橋有又三斗除け土橋有左右並木此所  
日山系三斗除て又村有石鳥村の三四斗も〜出切  
又並木申〜斗の右家た松右板〜斗の村有  
千夜村と云〜右橋の間の散村と云未詳の〜

三四斗の小石橋と汲り又三斗に〜並木は古田より  
三斗に〜村有片瀬の四斗谷〜斗に〜又並木  
二斗の土橋と汲申商と三斗の村と〜  
家並り〜一斗に〜右家の外に石燈籠あり又  
高平に〜たに濟急と云ち有三斗の〜片瀬の〜  
〜斗の〜並木の申(四斗)の〜上り下りた  
汲流有又三斗に〜か上り板橋と汲三斗は橋と  
〜斗十四百有川左並木水海山〜斗の橋村と  
云三斗に〜た〜普門寺と云ちあり〜斗は  
十文字に〜た〜大橋有又二斗斗右に有た〜

有地藏堂有三所坊左に長良寺有い達家内へ  
小便を夜に名をいふも同く桶と伏せ家多し  
又下斗に葉三三下坊皆柳村と云ふ所一三所を  
右に古道具屋有跡と安光寺又下斗に葉三三所有  
西村左に坊屋有言又三三所出の所  
解り水たな来寺坊斗此古橋と後又申へ坊  
是坊中岩村と云ふ一武下坊左寺有寺と云  
右小上免徳院と善家有又武下坊岩村の中  
右に寺有能寺也名と云ふ此岩寺六丁坊左の  
入家別銭智川者也

越智川驛 小休 柏屋之橋 五丁三岩 小半の岩  
是と云く連に川たな来武間斗此石橋と後葉在  
入未申へ寺下斗坊左古橋と後日光寺此葉在  
乃左右橋也六丁所はく寺より下り葉来流坊左り  
川へ出る

越智川 重九丁 此川は後橋に流るはし橋も久しかり

川と流りて上り口中村と云能村こ平来へ三丁斗そ  
葉在右畑中に三丁之乃大松有武下坊の村有小橋  
村と云し下斗の流たな来小上橋と後右寺有

此川は後橋に流るはし橋も久しかり

若立と云々未へ三四丁以成其地元山向にあり  
式丁斗以川原が未武間斗の石橋と反たにあり  
是が年来(地)一元山右にも重し並木又左古田  
畑左の山あり一丁斗以村有位田村といふこの地  
縮こめ織止し式丁斗以右に過堂有限より成路有  
伊勢土山に出る及のよし是の江類に成九丁斗以地  
根に若宮小祠有少し又右類に成る家並大によし  
式丁斗に重し並木へ出元山右小を一丁斗に成土山者二斗  
以家有い道反に山を一丁斗に成申西河原村又  
大によし左地藏堂有右小ち有木守と成三四丁以

右洞窟有大小種と云是近少く由西のり地  
以二丁斗に成小石橋と反右小石地藏有是が年来  
地是が石塚村と云大によし三丁斗以右小并親多  
有又式丁繩子とあり右の元山依未城記のよし  
又並木有左右田之式丁斗以右古塚右松反橋と地  
其二河村村境有根根の多境小七子あり並木  
松に竹垣と是より一頁地一松橋江清水鼻村  
とありあり

清水鼻村 二葉下 小休 右後上 津敷古地之 五葉木道之 切し書  
此ととり未申へ二三河村三年(地)山後より成る



少の川たの東小石橋と後三丁に在る有西福寺  
と云ふ又三丁の右に橋有け村よし三丁に在る左木  
塚上段と種くついで其他の藤原津田の社有  
りふれと云ふ又三丁に在る此間(出)又村又長老寺  
村と云ふと云ふ三丁に在る合少と云ふ有右福茶屋の  
傍に帝金明神の祠有此岩之能

武佐津

昼休

月夜

佐右馬

三丁に在る

此家に古キ具豆の金物之製する為焼釜有り

出で申周(三)丁に石橋と後三丁に在る左武佐山  
長老寺及石橋有又三丁に在る左内是と商成上村

三丁に在る出切筋あり有京金以産石焼釜有是り  
申周の町より右に橋有此先一野一色氏陣屋傳の磐  
西岩村と云ふと云ふ兼業と云ふ右に溝を築く此  
及あり是の左山田右畑と向に程松山あり八九丁  
に在る小石橋と祠有上田の社と云ふ之傍にあり樹木  
皆ありと云ふ八幡山と云ふ所の元山伝在古松の石  
此更其氣配をよし有たむと云ふも是の三丁に  
川たの東武佐津の土と云ふと斜に後少の川  
申橋と云ふに在る敷山あり十丁に在る田の中に  
平塚有是の家有右小石橋有是と云ふ村と云ふ

お宿の村に三斗にうく左題目石碓有門梅の家後  
三斗の東八幡の大宿有る宿名はしるはる見せ  
酉時又村有東橋園村と云三斗の山切右に山者  
川左岸橋関川に九回此土橋と云後三斗の山切  
左の中に大石橋を垣む此山を隔ち又三斗の山切  
是邊に古津川橋有九斗の又家有東橋園の内  
がのたに左柳有土橋と云三斗の山切右に橋  
十斗斗のう土橋を渡り川左岸大川の支流に  
川の支流に連に年未へ下り川末に出舟橋十八斗を  
渡川西流に老老川と云に年未へ上り申酉時

平地三斗の申(か)と上右に北場有是方下申(か)  
平地西橋園村より入に若宮明神名の宿有  
村のあり大松樹有三斗の山切右に川左岸大  
斗の石橋と云後三斗の山切又橋の向に渡りあり  
此兼三斗の山切に伊勢左の石表有家有渡村に  
三斗にう山切北場有か上りり三斗の山切と云り  
又兼申酉(か)と上りり左に三斗の山切有家有  
有申酉の村に渡村渡者(か)と上り石橋を渡り下  
申酉の渡山向にあり右に石橋有ち有鏡大の神  
名宿有ちき社に此山か上り右に渡の井有石橋



多し此村家並希多

鏡岩

三重

小休

止る所

九折の急

庭に紅葉あり

出で申酉（山）のつ橋三丁にゆく兼来（山）右左の山由地  
た山林の及し一丁斗そた古石橋多し三丁そ  
か下未申酉の山と橋山はむうて山右向にあり三丁そ  
下川の上石橋三丁斗後ある橋と云三丁所又か下り  
下川と云六丁宿後又上り下り家三軒有藤原村あり  
此境藤原境と云た芦沼右田地也（山）四丁以下に  
敷有止材又大藤原と云家あり此山美濃之乃  
そ家そは池あり有よし云てこの三丁はれ橋

有又三丁斗そ出切左古田地也（山）又三丁斗そたは是右  
田にけ及傍側と由り松多し其下村有（山）小松村と云  
あり此村三丁斗の恒多し此分三丁から西河川水  
たそ流る三丁斗そたは古行敷有是かから申酉上  
上り上た一切降と藤と右石橋あり砂下川  
昔斗と鐵橋川と云又下上又一切右あり下たに  
石橋と云神社有藤原神社と云是か平地村有是地  
云はし申酉分（山）三丁以下右に堂有合比羅波乃  
行者と志守と是と云出切並来有申酉左古田（山）は松  
太右にあり右田の向に多松あり或下斗は砂山の上

松有三山反向にそくも二丁半の右に反極有左家  
横場津村と云未申八二丁半の右に海場有左家  
本丁半にそく少上又下左家三所有又上三町二町半  
或ら有此田の二丁川いふき市に有皆右極の切有是系  
世の極有右田三丁半の右と云又家有是所半の  
右土藏の極に取のりたる大松有此市小條系村あり  
三四丁の右所敷有又少の右家有是丁半の川左家  
或る半の土橋と云反右にや一他りる家有此市也二丁  
にそく右に極の果と云いる土蔵有是丁半これ場有又  
少の右極田は極右にお取のち有三丁にそく川左家

之間半の右橋を渡此田も二一と編とる善有  
二三丁と右極上に極有出初左に三上山と云も右家  
田也未申六七丁の右に中仙及小圃反の右表有  
少の右に逆傾の右極有是の家右極く二丁と云  
右橋所に右地有是所村御村と云たりのちには牙  
舍利と云ゆる右表有少右極の極場又右の二丁  
半にそく右の極社有是道の家是天と云しは道に極と  
出の右のせし六七丁の右に曲り子右半有右半の中  
法水内と云入と云ゆる橋有是是申園此半の川左  
未九人半の土橋と云反右に少極し上り向は是半の半橋

院と云は不慮成り少く練土と云は井原殿  
所謂之は練土と云切西成り以池洲川出河東と云  
廣し川中或は河床板橋之流木東北流と此川  
布と物と下有申園上り右に石能電方下流也  
上り下流有是の並木と云川は米九斗一石  
土橋と云は右宮津領の石表有申園と云余の家或は  
軒有是の並木左田畑七八斗の家有少山入口右村  
か右の筋あり土は少く右橋又西成り三斗以たり  
慈眼寺帆柱観音茶師の石表有三斗以川は米五石  
武原川後分た橋一左は並有吏今申中右省の御意

東三方右板橋有是の己年につく小休と云は仁王門  
有年有東門院と云此省右橋の東の首見村也

守山驛 小休

此省馬具と云は家多し 正に景石あり

是と云く未申に三斗以出切川有少山川と云古斗  
板橋を越水東流右三方八斗多右にあり是と云く  
寺河斗以たに不蔵と云小並有二河斗はくおまきり  
並木と云は村今省と云三斗に右右像上板た大寺  
又寺斗末の河家有宮津領境の石表有船下堂村と云  
あし水たは流也右右少右橋有此邊末上り

二三の右親方は寺有るは滝橋有る少く又兼末左  
田畑二斗に之齋村又あり二三斗に之出初村小き  
兼末の右親方は寺有るは滝橋有る少く又兼末左  
田畑二斗に之齋村又あり二三斗に之出初村小き  
滝領の石表有此兼末の二三斗に之大賢天王社石  
大多形洞額有燈籠も多し右寺あり此也福前乃  
小庭田地の中に之榎式は流流たのちと流る有る二斗  
を宮斗の石橋とあり斜に鐵石寺行敷は兼末に  
兼末の兼末へ二斗に之橋有二三斗に之水たより兼  
九人斗の石橋と後右石佛有小堂あり兼末三斗有

三四斗に之橋左有是有左石仏有少し下り兼末の  
村有沼川村と云あり二斗に之出初兼末左田畑  
又或二斗に之少し上り二斗の川有る橋三斗あり  
後村有中沢村と云中流たに和申敷る寺有二三斗  
石橋と後兼末兼末四五斗に之水車有水たと流  
二斗に之出初兼末水左右流あり圓橋州名  
石臼多し又村有沼川村の内と云あり二斗に之石  
多形社見あり燈籠有天台は車も流る川左  
兼末間斗の石橋と鐵石の兼末の村あり二斗に之大  
松有水石橋と之兼末の川と通りたと流る二斗あり

並東右に池有花若菜咲花より又三斗に村有  
池井根と云ふ少切左右場と板と載二斗之左者  
將大(ト)四五にしく未申(八)第池上下十斗此(ト)雨と  
或是(ト)草津川(ト)又下りた(ト)中山及東海及進(ト)の在表  
有此宿大(ト)也

草津津泊

本陣

七斗村お名

此泊(ト)系(ト)旅(ト)清(ト)代(ト)大(ト)坂(ト)津(ト)代(ト)の(ト)さ(ト)け(ト)き(ト)其(ト)乃(ト)自(ト)付  
か(ト)く(ト)の(ト)さ(ト)け(ト)も(ト)左(ト)側(ト)さ(ト)り(ト)ぬ

此(ト)乃(ト)草(ト)程(ト)も(ト)家(ト)元(ト)為(ト)合(ト)成(ト)の(ト)八(ト)人(ト)馬(ト)出(ト)し(ト)様(ト)さ(ト)と  
一(ト)如(ト)と(ト)味(ト)点(ト)の(ト)か(ト)ら(ト)に(ト)之(ト)出(ト)進(ト)き(ト)申(ト)ぬ

十四日

二里

晴

六時(ト)か(ト)も(ト)晴(ト)時(ト)々(ト)雨(ト)昼(ト)晴

寅乃(ト)弟(ト)三(ト)斗(ト)に(ト)宿(ト)を(ト)出(ト)く(ト)六(ト)七(ト)町(ト)未(ト)申(ト)の(ト)方(ト)川(ト)左(ト)か  
未(ト)四(ト)間(ト)斗(ト)の(ト)大(ト)石(ト)橋(ト)と(ト)或(ト)半(ト)斗(ト)右(ト)大(ト)石(ト)多(ト)指(ト)渡(ト)竜(ト)指(ト)有(ト)菜  
明(ト)神(ト)と(ト)云(ト)可(ト)流(ト)以(ト)原(ト)三(ト)井(ト)右(ト)角(ト)石(ト)植(ト)上(ト)筋(ト)家(ト)不(ト)有(ト)又(ト)三(ト)斗  
右(ト)に(ト)北(ト)場(ト)並(ト)有(ト)三(ト)斗(ト)以(ト)右(ト)切(ト)矢(ト)橋(ト)及(ト)有(ト)妹(ト)餅(ト)大(ト)是(ト)是(ト)り  
村(ト)元(ト)家(ト)は(ト)元(ト)家(ト)疎(ト)之(ト)左(ト)若(ト)見(ト)情(ト)三(ト)斗(ト)以(ト)右(ト)多(ト)指(ト)有  
新(ト)宿(ト)在(ト)神(ト)か(ト)く(ト)半(ト)指(ト)半(ト)斗(ト)に(ト)並(ト)菜(ト)八(ト)九(ト)下(ト)切  
た(ト)右(ト)塚(ト)有(ト)上(ト)松(ト)毛(ト)か(ト)川(ト)左(ト)未(ト)八(ト)斗(ト)以(ト)右(ト)橋(ト)と  
流(ト)た(ト)右(ト)竹(ト)藪(ト)り(ト)た(ト)ま(ト)家(ト)有(ト)三(ト)斗(ト)以(ト)右(ト)上(ト)子  
二(ト)斗(ト)以(ト)右(ト)北(ト)場(ト)有(ト)桑(ト)に(ト)石(ト)多(ト)指(ト)名(ト)又(ト)三(ト)斗(ト)以(ト)く

出切並木廿二丁以上橋と紙二丁斗切た家ありまう  
かとら又並木と切二丁原此田申の酉(四丁)一  
後三年之間を幣一丁た土の右の田にか一上り川  
たが来い九畝此土橋を成たうわ川に二丁斗切村有  
月の輪形田と云此田の中は二丁斗切の地二丁斗切の  
月の輪の地を有と云うて一丁斗切の並木  
武丁斗切と云う又と云う家ありか一丁斗切の武丁斗切申  
き武丁切又家あり右の地あり又武丁斗切より上り  
又下り三四丁に上りたに地あり是月の輪の地あり  
一丁申南の地出切の年(四丁)八九丁又申酉(二丁斗

に上り家あり又二丁斗切が上り右の地有上段を極下  
二丁斗に上り並木又家あり武三丁に上り又並木申(四丁)申  
申又家あり是の申酉(七八丁)下りた家右の地あり  
二丁斗に上り右の地あり又二丁斗切己年(四丁)申切又上り  
四丁間の土橋と云又下り川たが来二丁斗に上りはる並木  
是迄家あり己年(四丁)の二丁斗に上り又家二三丁切あり是  
を云うて又並木家あり二丁斗とて酉戌(精上り)二丁斗  
又下り出切左の地有二丁斗に上り又家あり酉(四丁)の  
二丁斗に上り又下り二丁斗に上り並木(四丁)右の地あり  
少く下り二丁斗切又家あり此田大はと云申酉(上り)下り

左所津に又家あり又二斗に切葉木田右  
平山あり二斗に又家あり此道平木申酉川右  
中一八九斗右に木部と云石表有是のちきり  
瀬田大橋と申中橋と云又小橋と云一斗に左岸  
入瀬田橋上仕飲人の知るを分れは之敷

鳥居川

二里半

小休

定石

六斗五分  
半付五分

此小休石寺に十八所有と云一泊り大津に  
さへ石山と云んと云ゆを分れは之敷  
又此小休一泊り夜の半一斗り小休を定ぬ石寺に  
るは之敷也

此石寺津焼の海追来重浩乃海に  
是は定例のこ小休はゆを分れは之敷  
是れを定ぬと云ゆ

交をゆて成交あり二斗に切葉木田右  
桐油と云ゆ一斗に申酉川右  
栗津ヶ原乃石山と云ゆ一斗に切葉木田右  
虫子(粘)二斗に切葉木田右  
二斗に切葉木田右  
今井の塚有石橋有此道丑亥子の間と云ゆ  
川又二斗に切葉木田右

流左右田右に湖水あり共六町に臨所の城あり  
此田申酉上り雨又止此所右波水畔せは治と共六町  
に又庚子と精波西なるも小川左方来小橋を渡り  
臨所の城のあり川左方来坊は二四間の大橋を  
渡車耳也田申酉(曲)町並有半町程と又子  
精一此町より日晴と申酉上り又申酉上り若菜橋  
能事社有三四町の庚子上り又三四丁に左音石津堂  
傍小天王鳥居有向ふも右なるも又二丁に南上  
精一此所斗に城大なるも三丁斗に庚子と精  
右小原申堂有又雨浪此城下町傍に五五丁に

右小寺有又六七町の右橋なるも此邊町に  
斗に右に田法橋と宅礼あり家有三丁斗に左  
寺有上り此町大津町と云又二丁斗に右入隅の屋敷  
傍に所有あり先左に大龍王石なる有社地あり  
又二丁斗に入隅の能事有是か成庚子と精一町斗に  
左下層友伴乃門有又四丁に向小能事有是より子  
寅に精一三町斗又酉成橋二町斗に山切土所  
矢来有向小池寺有土子門有是か己年(少)精一  
申酉(石橋)斗に波又午来に斗に又申酉(斗)に  
斗に左右矢来に官有八丈許之石なる



額有少、以左右寺有北也、り所垂め、八九丁に  
左と曲り、山切懸、有青石有是、西、以水、あり  
三四丁、たみ法花石塔有少、以寺有、二丁、に、冬、  
寺有、此、右、池、た、り、又、三、丁、左、義、仲、寺、有、一、丁、以、  
有、京、宮、有、此、迎、番、場、と、云、夫、橋、此、松、交、上、者、院、を、  
八九丁、の、右、に、を、え、ん、院、を、有、少、と、記、耳、から、き、  
乃、よ、び、梅、松、と、云、有、平、松、少、と、し、こ、の、先、茶、屋、の、角、に、  
大、阪、洞、所、の、者、也、右、寺、軟、と、云、三、丁、の、右、橋、  
三、井、寺、に、京、の、道、委、交、之、記、と、云、是、か、又、た、橋、  
諸、家、藏、屋、敷、の、所、と、通、り、た、橋、  
三、井、寺、に、

観音堂乃方、多、の、院、と、見、且、り、夫、の、観、音、堂、右、に、  
少林の、り、と、を、り、後、京、書、院、と、云、及、と、右、橋、  
又、た、橋、  
又、右、橋、  
又、た、又、右、橋、  
寺、院、と、云、  
大津、澤、泊、  
寺、院、院、  
本、津、大、院、と、云、  
四、半、村、の、者、

此、津、の、松、平、濱、波、も、云、家、院、と、云、之、系、れ、也、  
泊、り、外、れ、の、系、ハ、煩、葛、と、云、く、流、ハ、内、の、り、  
此、津、実、に、都、と、く、外、れ、の、家、右、に、云、り、  
松、平、の、系、  
池、小、三、系、と、云、り、

十五日 晴  
一里九丁

今日と都入か此のまのよき可くまをわくのしる  
そ乃半とさる此所と歩きく午の方十式三斗も  
石段上小祠有又少の行所有く右と山と三斗も  
此右と石垣とる能社有関法及神のよし又三四丁  
以上と坂有左石垣上と常取焼武布有二三丁はく  
下此と石垣と二斗斗下右石垣乃社有左家所と  
行焼と出と是是池走乃公もや又三斗斗下右山  
榊小社有少と平地也に又少と三斗斗と右石橋  
乃向と木庵と申此は未申のよし又三斗斗小石橋と少く  
西へ分ふ又三四丁はく下りる又三四丁は左れ場有

此所及友岐成左生伏見及のよし此道のうちたを以  
山城乃境も一と井大谷神九段神をと有とも略して  
見とせりし取右と及又下り三三斗と少と平地  
お花と系乃方中にも申此田畑あり又十斗斗と  
少と上り川右と東七八間の大石橋を渡右乃方と角と  
造りしる親言堂有傍小吹井あり此布之場と

奴茶屋

未不記  
野土

七半時  
小半と

是かか一平地申西へ七八所と成更と精武斗  
乃土橋を渡左と橋と成の方と三四丁はく小土橋と  
渡成更け邊池田八九丁の左右塚有り西成と

又武二丁の成兵上より二丁斗にぐ右小堂有ク平地  
也其下り二丁斗より平地左林右山くから西へ以  
二丁斗にぐ又下り左右山此は西成也よ平地二丁斗  
又兵子に以家有二丁斗より又下る右の方山の下に  
常焼池有ニ所子有此ま(中庭野千本松云云あり  
きとせ世のいふ栗田口乃由古の山に石塔有二丁斗  
又下た右山有子丑より二丁斗の右麓亦祠有也  
以右家へ入

蹴揚

里

六時子  
り希と云

又武二丁の成兵上より二丁斗にぐ右小堂有ク平地  
也其下り二丁斗より平地左林右山くから西へ以  
二丁斗にぐ又下り左右山此は西成也よ平地二丁斗  
又兵子に以家有二丁斗より又下る右の方山の下に  
常焼池有ニ所子有此ま(中庭野千本松云云あり  
きとせ世のいふ栗田口乃由古の山に石塔有二丁斗  
又下た右山有子丑より二丁斗の右麓亦祠有也  
以右家へ入

此山と云ふしと云ふし少く成兵上より二丁斗より平地  
此山天王おん丸のよしお家のつよ桃灯山有是なる  
向二丁斗左よ青蓮院宮見由又二丁斗より十丁斗  
そよと云ふ白河橋也是も赤物も供進又裁  
三余浦より西成上行十き武町右小堂有女ら由西成  
也身三余大橋は丸是も形りて付流

病

瀧本三郎九郎

六時三着

此所そ羽釣ると云ふ丸法殿を改メ法月(小田原)族  
乃言(回公) 切(廻)けのり恒例のをりる所  
そいより所奉(河)津依地(松)浦のぬ一方(も)ふりて

午の帛をく下宿（ゆりぬ）此市ありて北人の住いふと云  
左中（未）れるも有るまに云ふまにけぬ江府あり  
約（多）ね国清助ありまのと装束（様）ともも  
清夜ぬくや（る）る乃餉ありと（る）るの（未）の別  
赤（く）ま（を）立（通）り（は）か（り）て（大）仏（を）（立）

大佛前

小休 専定寺野立

小休 七時迄

是（と）（さ）（く）（あ）（り）（ま）（た）（通）（り）（後）（又）（と）（系）（雲）（大）（佛）（の）（傍）（り）  
（を）（一）（た）（火）（災）（に）（く）（堂）（の）（傍）（焼）（く）（礎）（石）（と）（是）（の）（と）  
（残）（る）（是）（の）（由）（及）（に）（か）（り）（て）（源）（宗）（通）（り）（友）（と）（衆）（あり）  
（り）（て）（此）（所）（を）（く）（川）（井）（鐵）（を）（た）（れ）（ぬ）（一）（系）（雲）（を）（系）（に）（お）（り）（て）

系雲がく（る）念款（く）て（る）ぬ（ま）（小）休（を）入

藤森

小休

伊勢の傍

小半の傍

是（を）（出）（く）（墨）（源）（通）（り）（伏）（見）（の）（傍）（念）（款）（を）（振）（り）

伏見

本陣 大塚の傍

七時迄

此所（に）和州（乃）福壽院（款）と（て）出（右）（を）（く）（き）（入）（是）（に）  
余（の）（祖）（宗）（乃）（旧）（地）（を）（く）（去）（り）（て）（あ）（と）（も）（有）（れ）（の）（法）（を）（乃）  
任（も）（満）（ち）（と）（帰）（政）（を）（也） 公（の）（中）（に）（清）（山）（せん）（の）（法）  
謀（る）（ゆ）（へ）（あり）

（乃）（叔）（成）（乃）（帛）（を）（り）（に）（船）（乃）（調）（夜）（も）（さ）（ら）（ぬ）（は）（ぬ）  
と（て）（此）（宿）（り）（乃）（舟）（の）（川）（を）（也）（船）（よ）（系）（を）（所）（謂）

淀舟もく具秋細く長く〜〜〜を根を漕ぎ  
私なり入る〜〜我若無き所と長サ七八斗に  
中ハ四尺六寸ハ石ぬぬ〜〜丈とあり〜〜此方ハ  
中、棧〜〜を根と云く漕〜〜〜〜のありて  
は声も〜〜言るを根と云く漕〜〜〜〜次の方に  
後者共六七人入るの席共次〜〜乃若無き  
所有〜〜丈ハ私子の居るあり此内ハ物乃〜〜の  
葉共高松若乃敷〜〜今此ハ〜〜棧〜〜の〜〜ん  
方〜〜是ハ淀川の流と〜〜と宵、九月廿昔  
月清波〜〜〜浪と云く川上の京及波赤登

乃遊いも中〜〜ん〜〜い〜〜ら〜〜公地〜〜〜船乃  
窓とも〜〜〜お〜〜ま〜〜〜友友を眺り川能  
面ハ浪乃波を〜〜〜あ〜〜ら〜〜たハ芋洗と云へる  
右ハ首乃森浅度乃あり〜〜ハ芋洗と云へる  
い〜〜と〜〜〜後乃城上間を〜〜〜ぬ今宵生  
我〜〜と〜〜葉内此ハ城を〜〜河〜〜町を〜〜と〜〜  
〜〜松木に〜〜つ〜〜〜〜〜〜又〜〜この眺も  
〜〜ぬ陸〜〜ハ豆種俣の〜〜の町と云〜〜〜  
小泉〜〜〜意〜〜松も〜〜ん〜〜り〜〜実ハ私あり〜〜ぬ  
松流を〜〜れ〜〜も  
た〜〜を〜〜けの〜〜ゆ〜〜わ〜〜さを〜〜の

此のぬ隈がまきもたつろり新有く先へ一  
段の小橋と云ふはぬ北橋に城乃天子の町に  
より長サ七十二間ありと云ふはこれに  
水車有海と云ふは四五尺もあると云ふ  
ゆきもたつろり川水を度て城乃ろち  
外もろろく松子月の光りもろろ  
振いせん方奈

是と云つて右よ山崎及八幡あり北辺  
船渡一有はし是乃取方奈三  
中津川乃岐流乃有亥乃井乃  
後者たも成と云ふは心もろろ  
きぬが川まきと云ふは是乃  
須大坂乃天満橋天神橋  
過書町あり洞元よと云ふは川  
有ぬ

大坂止病

過書町銅座 為川半十郎

六半付迄

十六日 晴

今朝卯乃半の次先相洞空に田病を公内の数々余ハ  
半十郎の箱おまはし是の使者をんまこ届乃乃  
びとやを一諸家分の欲使者あとも入つての自  
言とやまをよめんとまよこかきまの習人おひし  
久うし交乃何事か荒尾ぬ一表坂のぬおまを  
言まぬ暗くも語あとしてあまの御城代おまを  
りあと約しつてぬまぬ

十七日 晴

洞空止宿

今朝と御城代の四許にまよハ礼儀をとまの

井もろ次は宿りを出荒尾但州の公廳にせり交ハ  
荒尾のぬ一葉内まよこの井もろりに御城代の四許  
いなり 公法子た年りて菓子なとあぬ是より  
荒尾表坂ぬ一の許にぬえして年り末のりりこ  
病りにぬりぬるハ洞病を浪のりり通しといふ  
りあしつて洞空乃及人た出有浪のぬむと改ぬ  
今日も洞病止宿翌出ハぬきし本状あときつて先  
通夜深しつて御ぬ

十八日 晴

今朝と夜乃井以し病りと之し洞中所住及夜節  
ずり者こ方へ致し吹方小一覽波者住居そ世々  
休む菓子茶をとかしぬ在交の辰田共の清くさる  
あとも家居りしとる名洞小ありゆきし鉛石蓋洞お  
さつちりあ箱をく持ち危くく角しを掉し小  
取ら近のりの演説し其箱とられぬ是より又  
俵も汲所とふしおらなる俵もとこるあへく唐  
に交易あめをえらる京山前千純鏡の銘又ハ  
鶴冠茶すく入並所なり是と見年く午の井  
とく病減ぬ翌乃然ハ交と出えく帳見ゆ申る

あり又江戸口さけ魚子し是書古々にき入抄おと  
わりの百個舌板乃ぬしよ託しましく又書海下ハ  
別に人しあま休きし翌日結支をとりく  
百個く夜更く御ぬ



